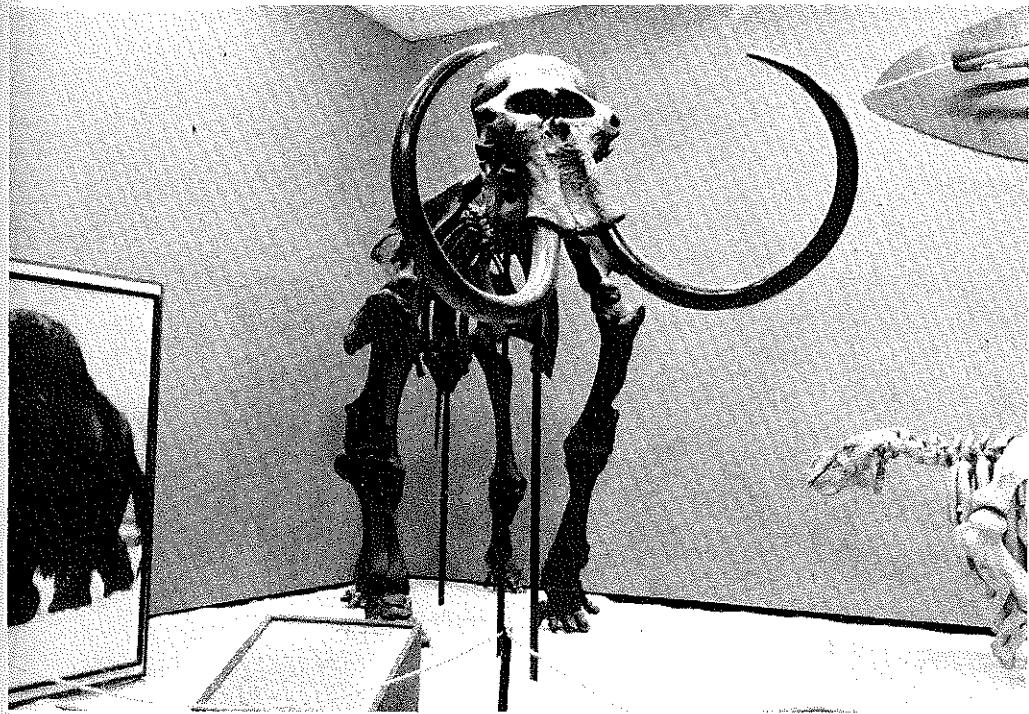


ISSN 0385-0293

沖縄県立博物館年報

No. 14



1981

沖縄県立博物館

目 次

序	館長 大城 徳次郎
沿革	(1)
誌(抄)	(2)
予算関係資料	(7)
施設・設備	(8)
組織	(10)
事業	(12)
1. 展示	(14)
2. 調査・研究活動	(26)
3. 資料収集活動	(29)
4. 資料整理	(29)
5. 資料保存・修理	(30)
6. 教育普及活動	(30)
入館者数	(36)
資料	(41)
1. 昭和55年度収蔵資料	(41)
2. 収蔵資料現在高	(41)
3. 新収蔵資料内容	(42)
4. 新収蔵図書	(45)
5. 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表	(52)
当館関係条例規則(抄)	(53)

※表紙写真 マンモス(レプリカ)

序

昭和55年度は、昨年からの継続事業として推進してきた空調等総替え工事が完了しました。それにしてもまだ、沖縄の自然と文化の資料を保管・展示する唯一の県立博物館としては施設設備の面で決して充分とはいません。現在の敷地に移転して25年目を迎え、その間、博物館活動は年次向上発展をとげましたが、施設設備の充実が追いつかず、大巾な遅れを痛感しているところです。例えば、収蔵庫は許容量を越えた資料がつめこまれており、また、展示やその他の博物館活動を推進するのに必要なスペースも少なく大きな支障をきたしている現状であり、57年度は、施設の整備を強力に推進して行きたいと思います。

収集面では、サウロロフスなどの恐竜のレプリカ、リュウグウォキナエビスなどの貝類標本800点余の自然系の資料を入手し、また、ハワイのジョージ・H・ケア氏からは『行進中の琉球の楽隊』他3点、那覇市の謝花寛立氏から（謝花雲石書跡及び資料）など、それぞれ貴重な資料の寄贈を受け、その他にも自然・考古・歴史・美術工芸の各種の資料が内外の多くの方々から寄贈をうけました。

それから、特別展として開催したソ連科学アカデミー「失われた生物たち一大恐竜展」は、戦前戦後を通じてかつてない催してあっただけに非常な好評を博し、観覧者の総数が16万6千を越えるほどの大盛況を呈し、しかも何の事故もなく無事終了することができましたことは、県をはじめ、主催者側の御協力の賜物だと心から感謝しております。

なお、55年度は、第2回目の移動博物館を今帰仁村にて催し、また、博物館総合調査を渡名喜島にて実施し、その報告書を発行しました。特に、移動博物館は、当館を利用する機会の少ない離島や邊地に住む人々のために、より充実した内容へと今後とも努力をして、県内外の皆様から親しまれる博物館経営をしたいと思いますので、今後ともなお一層の御助言と御協力を願い申しあげます。

昭和56年6月

沖縄県立博物館長 大城徳次郎

沿　　革

1946年4月 (昭和21年)	沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」(当館の前身)と改称。 館長大嶺薰就任(1953年5月退職)	1973年2月 (昭和48年) 国庫補助を得て1,573m ² (102,484千円のうち25,621千円国庫) 2階を増築。展示室が3室ふえる。
1947年12月 (昭和22年)	首里市の沖縄郷土博物館は沖縄民政府に移管され、「首里博物館」と改称。 館長豊平良顯就任(1948年3月退職)	1976年4月 創立30周年記念事業挙行。
1948年8月	館長原田貞吉就任	1979年4月 (昭和54年) 入館料一般50円を100円に、大学・高校生を50円に、中小学生10円を20円に改正。また、特別企画展の入館料は500円を超えない範囲内でその都度決める。
1953年5月 (昭和28年)	首里当蔵町の龍潭池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し規模拡大する。	1979年8~12月 空調・防災総替え工事2か年計画で着工、本年度は展示室のみ完了。
1955年5月	1955年5月館長原田貞吉退職。	1980年1月12~2月3日 (昭和55年) 「救世熱海美術館名品展」ならびに「沖縄県立博物館名品展」開催、会期中76,000余名観覧。
1955年8月	館長山里永吉就任	1980年2月 才1回移動博物館、久米島具志川村、仲里村、両教委共催。
1955年9月	首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。	1980年10月 1979年度より2か年計画で始めた空調等総替え工事完了。
1958年8月	館長山里永吉退職	1980年11月1~30日 「失われた生物たち一大恐竜展」琉球新報、日本対外文化協会ソ連科学アカデミー共催。会期中166,445名観覧。
1958年9月	館長金城増太郎就任	1981年3月30日 当館博物館法に基づき登録される。
1961年12月	館長金城増太郎退職	1981年4月 (昭和56年) 1日付で館長外間正幸勸奨退職 同日館長大城徳次郎就任。
1962年2月	館長大城知善就任	
1965年	首里大中町尚家跡土地購入(195,751ドル)	[付]
1966年10月 (昭和41年)	米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294m ² 、1階356,000ドル)の新館が落成移転。	1936年7月 (昭和11年) 沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」首里城内北殿を使用して開館される。貴重な文化財が数千点収蔵されていた。
1969年11月	館長大城知善勸奨退職	
1969年12月	館長外間正幸就任	
1972年5月 (昭和47年)	日本復帰に伴い、名称を「沖縄県立博物館」と改称。	

- 1945年3～5月 沖縄戦で「沖縄郷土博物館」(昭和20年)全焼。
- 1945年8月 米国海軍軍政府により残欠文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」設立される。
- 1946年3月 (昭和21年) 首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、沖縄郷土博物館」が設立される。
- 26 ①第73回博物館文化講座「外国の博物館をめぐって」
講師 琉大教授野原朝秀氏
②映写会（文化課主催）4：30～6：30
「竹富島の種子取祭」「下園の十五夜」の2本
5. 9 新収蔵品展オープン(5.22まで)
- 11 沖縄民俗研究会
5. 13 ①友寄英彦氏より鳳（十数点）寄贈される。
②「伊平屋島仲田の首里大屋の辞令書」修復のため京都へ。
(文化課予算による)
- 15 埼玉県議会議員一行12名来館。
- 16 第2回移動博物館オープン(於：今帰仁村中央公民館18日まで) 今帰仁村同教委と共催
- 20 宇茂佐富雄氏（在今帰仁村）より荒焼水甕7点寄贈される。
- 21 千葉県教育委員会東平久雄委員長他7人来館。
- 22 沖縄協理事、幹事合同会議。
- 24 第74回博物館文化講座
“紅型の世界” 講師 渡名喜明学芸員
- 27 館長九博協理事会、総会出席のため出張。
- 28 アルゼンチンの紙幣、硬貨寄贈される
(寄贈者講喜田武吉氏約45万円相当)。
6. 3 平和祈念資料館運営協議会へ館長出席
- 10 鹿児島県教育委員会教育長井口恒雄氏一行来館。
- 11 ソ連科学アカデミー日本語の言語学者IGOR F VARDUL氏来館。
- 13 「琉染展」オープン(15日まで)。
- 14 医薬書研究会

日誌（抄）

(昭和55年4月1日～昭和56年3月31日)

4. 2 ①カルホニア大学 ROBERT A. SCALAPINO氏来館（米国総領事の案内）
②駐日E C 委員会代表部1等書記官アレスター・サットン氏他5名来館
館長案内。
③仲村ふみ子氏より厨子がめ3点寄贈される。
- 3 日本民芸館理事柳悦孝氏来館。
- 4 故謝花雲石氏の遺品の一部寄贈あり
(寄贈者 謝花寛立氏)。
- 5 比嘉定寛氏より陶磁器及び民具が寄贈される。
- 6 真嘉比の教育隣組が、博物館内の見学の後、高倉前庭で、学事奨励会を催す。
- 7 友の会評議委員会。
- 8 対文協杉森、落合、渡辺氏新報社親泊一郎氏らと11月恐竜展についてうち合せ。
- 13 沖縄民俗研究会
- 15 新田卓磨氏(琉球新報社)から鄭元偉書「扇面」1点寄贈される。

6. 15 ①沖縄民俗研究会
 ②前福岡市立史料館長三島格氏、渡辺正気氏、鹿大助教授上村俊雄氏来館。
- 16 佐賀県博の森氏来館。
- 17 イタリア（駐日）大使ポリス、ピアンケリ氏来館。
- 21 沖縄昆虫研究会
- 22 ①辻七名高校1年生 240名団体見学。
 ②琉球漆器研究会
- 24 ①三大学美術合同展示会オープン（29日まで）。
 ②ブラジル・パラナ州・ローランシア市パラナ開拓農業博物館館長橋本悟郎氏来館（天野鉄夫氏の案内で）。
- 27 木崎甲子郎琉大教授より「南極の岩石」数点寄贈される。
- 28 第75回博物館文化講座
 「南極のはなし」講師琉大教授木崎甲子郎（ホール入口で南極の岩石展示）。
- 30 「ひめゆりの乙女たち」展への出品物貸出し。
7. 4 西日本新聞社より「九州陶磁器名品展」への出品物13点返却あり（異状なし）。
- 8 MBS、BEATE GORDON氏来館（宮城実氏の案内）。
- 12 沖縄開発庁振興第4課長廣永哲夫氏来館。
 ②天然記念物展テープカット午前10時。
- 17 ①池宮正治ゼミナール円覚寺鐘の拓本とる。
 ②沖博協（総会）梯梧莊（今帰仁村）で開催。館長、大城、渡名喜、当山、下地出席。
- ① 前田孝允氏5名来館（11:30～11:50）、
 「沖縄の美—日本民芸館藏」展開催についての要請の件。
- ②第76回博物館文化講座「しまうたの話）講師 仲宗根幸市氏
- 27 ①琉球漆器研究会（於：会議室）
 ②沖縄県美術家連盟総会（於：ホール）
- 31 辞令書「伊平屋…」修理完了して戻る。
8. 1 特別展「琉球のシダ植物」展オープン（9月14日まで）。
- 5 長崎市立歴史民俗資料館長越中哲也氏来館
- 10 沖縄民俗研究会
- 12 台湾の美術工芸家顔水音喜氏他7名来館。
- 13 ①那覇地方裁判所長判事石田穎一氏、同所事務局長大合良義郎氏来館。
 ②南風原町の古波藏康治氏より厨子がめ3点寄贈される。
- 17 第77回博物館文化講座「博物館で描こう」
 講師 神山泰治氏
- 19 山鹿市立博物館長轟木正斗氏来館。
- 21 大蔵省税関研修所沖縄支所研修会
- 30 ①第78回博物館文化講座“琉球のシダ植物”講師 島袋守成氏
 ②上原新光氏（市内田原）より壺3点石斧1点寄贈される。
9. 2 2:00 柳悦孝女子美術大学長来館。
- 6 ①大分県歴史民俗資料館設立準備室主任 岩本仁蔵氏他1人来館。
 ②国際地理学会員20人来館。
 ③友の会評議員会
 ④古文書研究会
- 7 博物館、同友の会共催南部遺跡めぐり。
- 8 沖信金牧志支店長宮城宏友氏より厨子がめ1点寄贈される。

9. 9 11、12日予定の九博協研修会台風接近のため延期。
- 14 ①沖縄民俗研究会
②「シダ展」終了 感謝状贈呈。
- 17 ①水黒画展オープン(17日まで)。
②10:40衆議院大蔵委員長綿貫民輔氏他委員12名来館。
- 17 ③松下隆章氏16日逝去弔電を打つ(昭和55年1月12日特別講演をおこなっていただいた)。
- 18 佐賀県博「九州の文化展」当館出品分の荷造搬出のため森氏ら来館。
- 20 古文書研究会
- 21 ①沖縄市高原婦人会団体見学。
②石嶺小学校5年生と父兄団体見学。
③日中友好協会の方々15名来館。
中日友好協会副会長孫平化氏
同理事李福德氏
- 22 調査日程打合せジョージ H ケアー博士来館約1ヵ月間沖縄調査のため。
- 25 中国青年訪中友好参観団15名来館。
- 26 日本民芸館瀬底恒、田中玲子両氏来館。
- 27 第80回博物館文化講座「首里の織物」
講師 瑞教授大城志津子
- 28 球陽研究会
- 29 ①本部町教育委員会へ洞穴展パネル写真54点貸出し。
②図書館へ軸物6点貸出し。
10. 4 ①「唐人行列図」豊満清直(木版画)の寄贈(名護市大城吉正氏)あり、等々力氏案内。
②ハワイ2、3世35名招待研修団来館。
③「本部半島の洞穴展」(本部教委と共催、大城主任学芸員講演)。
10. 5 安次富長昭「抽象への展開」展オープ
- ン(10月15日まで)。
- 6 館長日博協総会出席(懇親)。
- 7 「おもろさうし」16~22巻枚合完了
- 21 友の会評議員会
- 25 ①古文書研究会
②沖縄昆虫同好会
- 30 ①館長、副館長、大城主任学芸員ソ連駐日公使チヨウフ氏を迎えて午後1時過ぎ空港へ。
②同公使一行知事表敬訪問(随行)
③ソ連駐日公使チヨウフ氏一行知事招宴(グランドキャッスル歓会の間)。
- 31 ①「失われた生物たち一大恐竜展」開会式及びレセプション。
②午後ソ連公使案内(知念海洋レジャーセンター他、館長、大城)ソ連科学アカデミー古生物学研究所々長タタリーノフ氏ら案内(玉泉洞他、副館長、当山)
③午後、那覇養護学校、大平養護学校、鏡ヶ丘養護学校生徒342名、引率144名招待見学。
11. 1 ①特別展「失われた生物たち一大恐竜展」オープン(11月30日まで)。
②特別講演(1)『琉球の自然と自然史博物館』講師太田正道氏(北九州市自然史博物館開設準備室次長)
(2)『日本の古脊椎動物と琉球列島』講師長谷川善和氏(横浜国立大学教授)(於教育センター)
- 3 文化の日 各100円割引
- 5 ①文化庁次長別府哲氏来館。
②和歌山次長宇治田省三氏来館。(全国

- 史跡整備市町村協議会長)
11. 8 来館者
奈良国立文化財研究所長 坪井清足氏
宮城県多賀城市市長 伊藤喜一郎氏
" 社教課長 阿部祐悟氏
- 9 佐賀県博手塚学芸課長米館。
- 14 切手原画の貸出し 8枚沖縄御趣連盟へ。
- 17 地学教育研究会40名来館（撮影）
- 18 ①繁多川の岸本家より厨子がめ数点寄贈される。
②沖縄子供の国よりワニ他30点の資料寄贈される。
③ソ連科学アカデミー民族学研究所員来館（国立民族学博物館教授加藤九祥氏が案内）
- 19 栃木県議会議員、世取山芳郎氏ほか12名米館。
- 20 成城学園大学平山教授ご夫妻来館。
- 23 入館者17,469名これまでの最高を記録。
- 24 入館者15,893名。
- 28 名護宏明氏より厨子がめ41点寄贈される。
- 29 等々力孝志氏より唐津焼の陶片の寄贈受ける。
- 30 11月1日からおこなわれた「失なれた生物たち一大恐竜展」会期中の総入館者数166,445名。
12. 4 (1)くんじょう、5日3時投薬。
(2)6日3時よりガス抜き（7日まで）
- 11 具志川市教育委員会主催「ひめゆりの乙女たち」写真展へ臨海寺梵鐘他11点借出(12月23日返却予定)。
- 14 ①島田慶次京都大学文学部教授来館（西里琉大助教授らの案内）。
②沖縄民俗研究会
11. 16 ①キングリー氏より厨子がめ三點寄贈される（総領事夫人ニクラウス氏が運搬して来られた）。
②照屋文雄氏（ハワイ州沖縄移民80周年祭副委員長）他4名来館。
- 18 沖縄県文化財修理技術者協会講修会（於第5室）。
- 19 那霸の新嘉喜一郎氏より厨子がめ寄贈される。
- 20 第81回博物館文化講座「戦後沖縄画壇の歩み」
講師 仲井間憲児氏
- 22 友の会理事会（評議員会）
- 26 ①西ドイツ（ドイツ連邦共和国大使館一等書記官）ヴィルフィール・シェルチ氏来館。
②博物館友の会総会（第5室）。
1. 7 東大名誉教授宇野精一氏来館。
東大教授大林太良氏来館。
- 8 お茶の水女子大学名誉教授井本農一氏来館。
- 10 ①義村朝義展オープン（25日まで）。
②寄贈者長坂千代さんら出席。
- 11 沖縄民俗研究会
- 13 飯田東籬筆「雪景山水図」（六曲屏風）の寄贈あり、同時に記者会見。
- 14 那霸市成人の日記念植樹、本館の前庭に琉球松3本植える。
- 16 青森県副知事関口尚哉氏ほか5名来館。
- 17 古文書研究会
- 20 日本民芸館長柳宗理氏金城信吉氏らの案内で来館。
- 23 衆議院事務局特別委員会第一調査室長長崎寛氏来館。
- 24 ①大分市在住の栗国善政氏（首里出身）

- より厨子がめ2点寄贈される。
- ②第82回文化講座『沖縄近代史の人物群像』
- 講師 琉大助教授比屋根照夫氏
1. 25 沖縄民俗研究会
- 27 ①文化財修理技術者講習会(於第5室)
②文化財防火デー実施。
③長崎県立美術博物館学芸課長、高崎獎氏、学芸員立平進氏来館。
- 28 柳宗理、タイムス玉城局長、久場氏、志多伯氏、大城精徳、分館側3人「沖縄の美」の打ち合せ。
- 29 最高裁判所図書館長坂井久雄氏那覇地方裁判所資料課長田原清輝氏の案内で来館。
2. 1 琉球漆器研究会
- 3 ①「渡名喜島の原始古代展」オープン(22日まで)。
②名護宏明氏から厨子がめ寄贈される。
- 4 岩手県議会議員堀口治五右衛門氏他14名来館。
- 8 沖縄民俗研究会
- 11 古文書研究会
- 13 九博協学芸員・事務職研修会(極めて有意義な研修会であった)。
- 15 沖縄なは子供劇場文化祭。
- 18 友の会寄贈の新車(トヨタ・ハイエース)届けられた。
- 20 鳥取民芸美術館理事長吉田益次郎氏他鳥取民芸協会一行40名余来館。
- 21 第83回博物館文化講座「考古学よりみた渡名喜島」
講師 当真嗣一氏(県教育庁文化課)
- 25 東京国立文化財研究所長伊藤延男氏来館。
- 26 首里高校染織展オープン(来月5日まで)。
- 28 古文書研究会
3. 7 ①西原高校書道展(8日まで)
②古文書研究会
- 8 沖縄民俗研究会
- 9 中華民国政府行政院人事行政局副處長歐育誠氏、台湾省政府建設庁事主任施宏基氏、台南市政府民政局次長劉阿蘇氏、人事課補佐伊野波進氏の案内で来館。
- 14 沖縄民俗研究会総会(於ホール)。
- 16 ①古波津忍氏から厨子がめ(3点)寄贈される。
②国吉善積氏から厨子がめ(6点)寄贈される。
- 17 ①県立伝統工芸指導所作品展オープン(19日まで)
② 南画寄贈あり
(1)「幽思」、池原清子筆池原清子氏寄贈。
(2)「白梅図」、池原清子筆池原喜英氏寄贈。
- 18 首里の翁長良明氏よりB軍票10枚寄贈される。
- 22 琉球漆器研究会
- 24 県博協議会
- 26 ①北海道教育委員会委員大原久友他4人来館。
②熊本国税局長小林繁氏来館。
- 28 ①鐘楼の屋根に屋根獅子設置する。
午後2時から屋根獅子贈呈式記者会見。
②第84回博物館文化講座「本土出かせぎ移住について」
講師 沖国大助教授 石原昌家氏
- 30 当館博物館法に基づき登録される。

予算関係資料

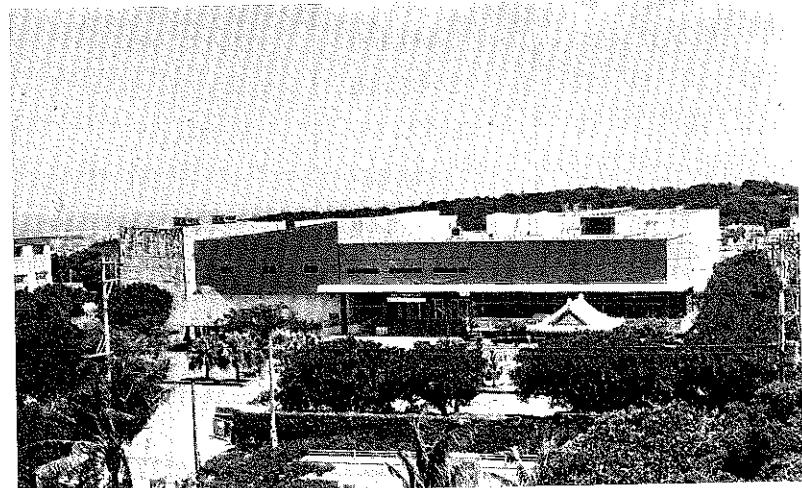
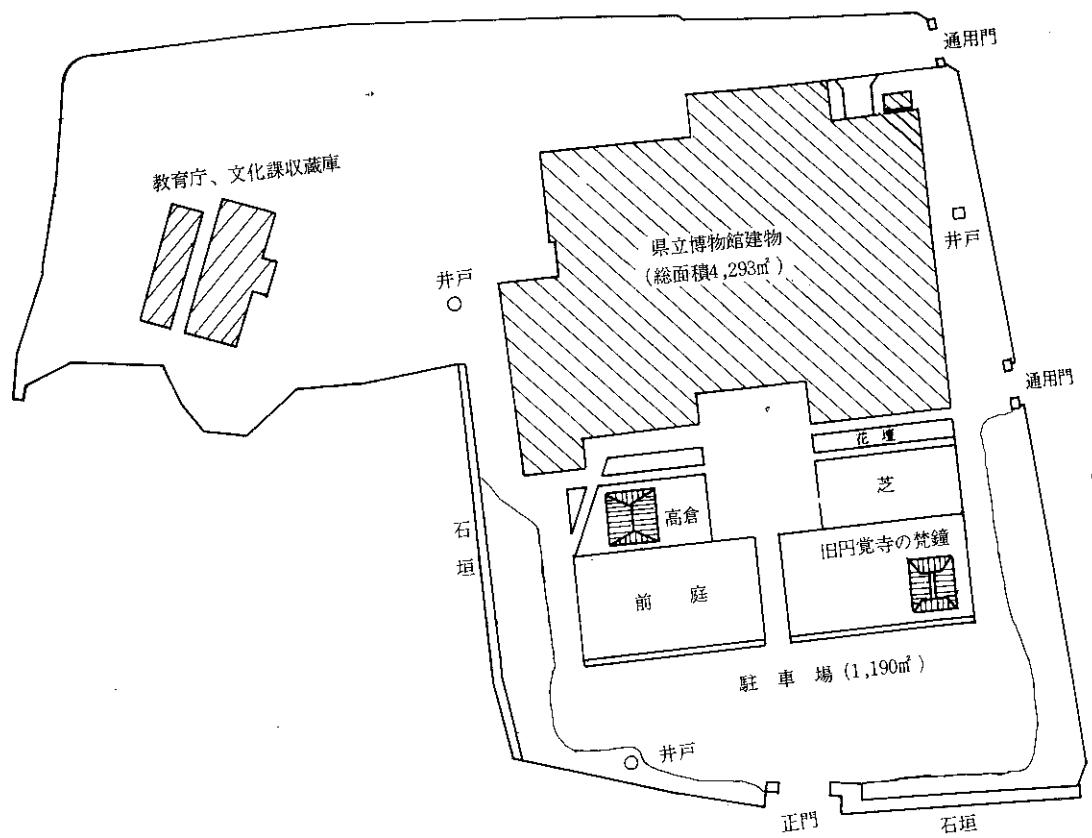
55年度博物館費（決算）

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
(節) 報酬	139,400	0	139,400
(々) 貨金	1,339,960	1,544,720	2,884,680
(々) 報償費	254,000	336,000	590,000
(々) 旅費	2,034,947	1,281,390	3,316,337
(細節) 費用弁償	1,031,990	483,730	1,515,720
(々) 普通旅費	1,002,957	797,650	1,800,607
(節) 需用費	17,130,387	5,136,722	22,267,109
(細節) 消耗品費	823,800	269,854	1,093,654
(々) 燃料費	23,870	0	23,870
(々) 食糧費	228,280	655,570	883,850
(々) 印刷製本費	1,785,000	3,203,298	4,988,298
(々) 光熱水費	12,139,587	0	12,139,587
(々) 修繕料	2,129,830	1,000,000	3,129,830
(々) 医薬材料費	0	8,000	8,000
(節) 役務費	1,606,549	9,340,960	10,947,509
(細節) 通信運搬費	762,930	6,340,960	7,103,890
(々) 広告料	0	3,000,000	3,000,000
(々) 保険料	0	0	0
(々) 手数料	843,619	0	843,619
(節) 委託料	9,903,000	7,488,000	17,391,000
(々) 使用料及び賃借料	114,650	20,170,000	20,284,650
(々) 工事請負費	2,800,000	0	2,800,000
(々) 備品購入費	42,694,430	15,600,000	58,294,430
(々) 負担金補助及び交付金	44,000	0	44,000
合計	78,061,323	60,897,792	138,959,115

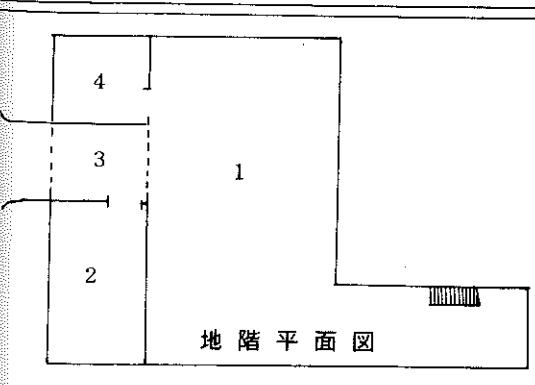
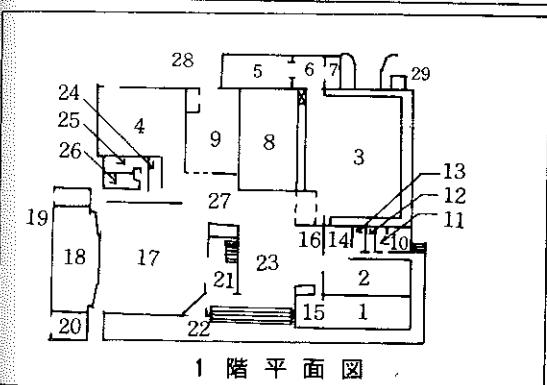
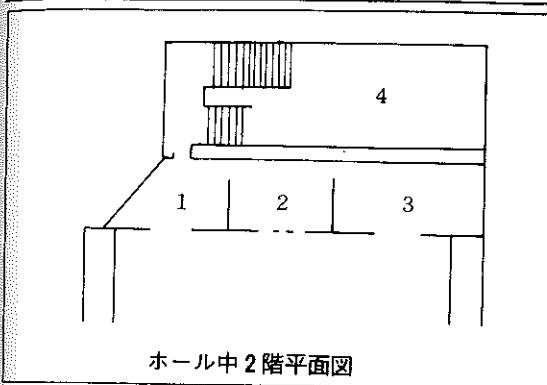
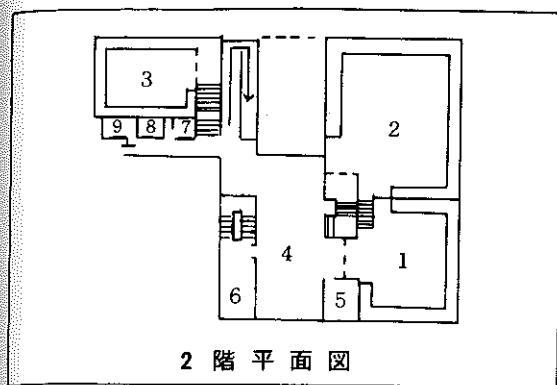
55年度歳入状況

科目名	内訳	常設展	特別展「大恐竜展」
博物館使用料		15,389,104	38,333,000
建物使用料		28,266	
合計		15,417,370	38,333,000

施設配置図



施設・設備



●概要

敷地面積
物面積
展示面積

ロビー面積
収蔵庫面積
駐車場面積
庭園面積
冷凍機

空調機

1階	2,328	2階	1,564	11,246m ²
1階	632	2階	870	地階 401
				計 4,293
				1階 1,503
				2階 513
				507
				1,190
				1,612

(チラー) 圧縮機 9kw×4台×2機
冷却能力 150,000 Kcal/h
第1室 2.2kw
第2室 1.5kw
第3,4室 5.5kw
第5室 0.75kw

1階収蔵庫、1階ショーケース 2.2kw
2階ショーケース 1.5kw×2機
地下収蔵庫 2.2kw
漆器収蔵庫 1.5kw

事務室 2.2kw
館長室 2.3kw
講堂 5.5kw

電灯	1φ 3W	30KVA × 1機
電灯・動力	3φ 4W	100KVA × 1機
動力	3φ 3W	200KVA × 1機
動力	3φ 3W	250KVA × 1機

		335kw
客席数	1階 434席	
	2階 196席	
	計 630席	

デスク型アンプ 1台
マイク 3台

変電室

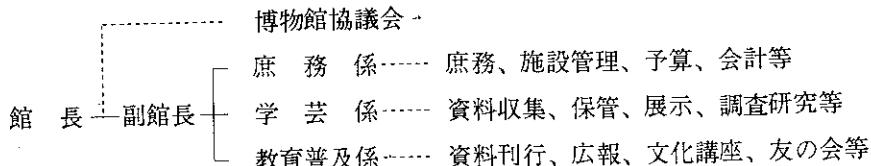
契約電力量
講堂

●室名と面積

2階番号	室名	面積 m ²
1	(第3室) 美術工芸展示室	265
2	(第4室) 民俗展示室	435
3	(第2室) 陶磁器展示室	170
4	ロビー	257
5	空調室	29
6	ホール控室	59
7	化粧室(女)	6
8	化粧室(男)	11
9	空調室	12
10	調光室	17
11	映写室	19
12	音響効果室	25
13	1階番号	
1	事務室	115
2	資料室	56
3	(第1室) 総合展示室	462
4	(第5室) 特別展示室	170
5	収蔵庫	120
6	荷解場	32
7	漆器収蔵庫	11
8	中庭	152
9	扇子収蔵庫	91
10	宿直室	11
11	湯沸室	8
12	化粧室(男)	7
13	化粧室(女)	9
14	図書室	28
15	館長室兼応接室	28
16	模型コーナー(首里城)	18
17	講堂(客席)	428
18	ステージ	116
19	控室	19
20	控室	32
21	講堂出入口	37
22	守衛室	14
23	ロビー	256
24	倉庫	14
25	化粧室(女)	21
26	化粧室(男)	17
27	売店	10
28	空調室	11
29	ポンプ室	5
30	変電室	

組 織

(1) 機 構



(2) 職員構成

1981年5月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務	備 考
館 長	大城徳次郎	博物館業務の総理に関すること。	
副 館 長	名嘉正八郎	館長補佐、庶務、施設管理、学芸、教育普及との調整に関すること。	
庶務係長	"	(事務取扱)庶務、施設管理、予算、事業に関する事務	
主 事	村山佐代	庶務、才入、予算編成事務に関する事務	
主 事	玉村良子	予算決算、会計事務に関する事務	
技 師	下地栄	施設管理に関する事務	
用 務 員	比嘉ミツ	館内外の美化に関する事務	
④ 学芸係長	上江洲均	学芸業務の統轄、民俗、書跡に関する事務	
主任学芸員	大城逸朗	自然系地質、図書受入れに関する事務。 ○謹みゆき	
学芸員	渡名喜明	漆器、染織ならびに展示業務等に関する事務	
④ 教育普及係長	宮城篤正	教育普及業務の統轄ならびに絵画、陶磁器に関する事務	
学芸員	知念勇	考古、写真資料(文化講座広報等)に関する事務	
充指導主事	当山昌直	自然系、生物(写真撮影等)に関する事務	
教育普及補助員	比嘉春美	解説員(委託業務)	
受付	西平節子	受付一階ロビー監視業務に関する事務(委託業務)	
監視	東美智子	第一展示室(委託業務)	
"	西平勝子	第三展示室(")	
"	金城信子	第四展示室(")	
"	照屋カツ	第五展示室(")	
清掃業務	金城ヨシ	館内の清掃業務(")	
宿直	玉城正篤	宿直業務(")	

(3) 人事異動

館長 主事	外間正幸 山口美代子	勸奨退職 県立聾学校へ	56. 4. 1付 56. 4. 1付
----------	---------------	----------------	------------------------

館長 主事	大城徳次郎 村山佐代	県社会教育課長より 県島尻教育事務所より	56. 5. 1付
----------	---------------	-------------------------	-----------

(4) 沖縄県立博物館協議会（56.5.1現在）

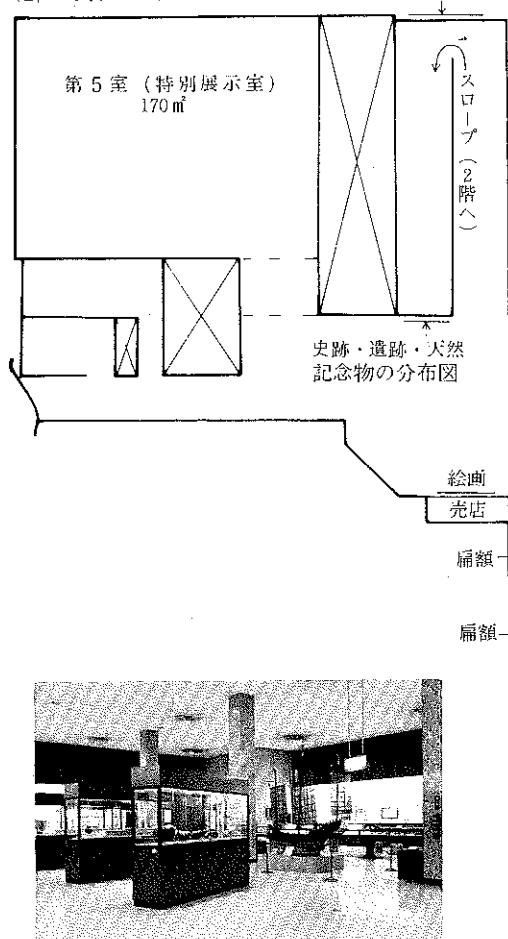
委員名簿

学識経験者	野原朝秀	南風原町新川38	89-4789	琉球大学教育学部教授
	外間政彰	那覇市松尾2-2-6	63-1955	那覇市立図書館長
	安次富長昭 (会長)	那覇市石嶺3-117-10	55-1653	琉球大学教育学部教授
	高宮廣衛	那覇市寒川1-23	34-3222	沖縄国際大学文学部教授
学校教育関係者	真栄田邦男	那覇市識名667-4	34-5535	首里高等学校長
	福地曠昭 (副会長)	那覇市久茂地3-9-12 (沖縄教職員組合)	67-0161	沖縄県教職員組合副委員長
社会教育関係者	宮里悦	那覇市大道14-10 (婦連)	32-5333	沖縄婦人連合会会长
	岸本利実	宜野湾市宇野嵩135	098892-2556	元県議会文教厚生委員会委員長
	新川明	那覇市久茂地2-2-2 (沖縄タイムス)	67-3111	沖縄タイムス社編集局長
	新田卓磨	那覇市泉崎1-10-3	67-1131	琉球新報社編集局長

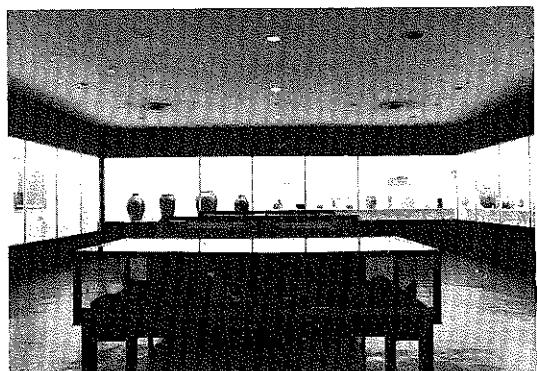
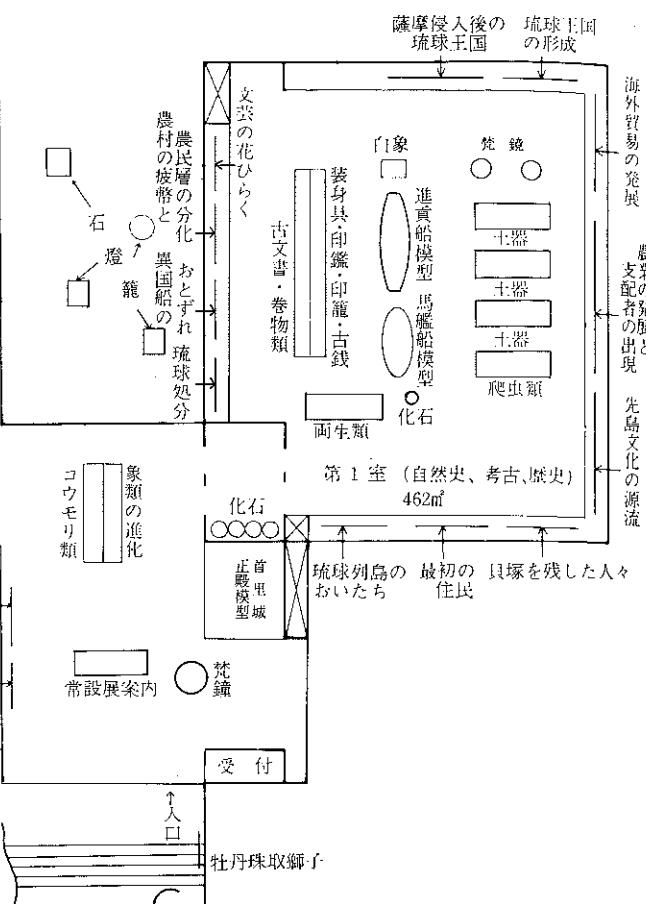
事業

展示（常設展示）

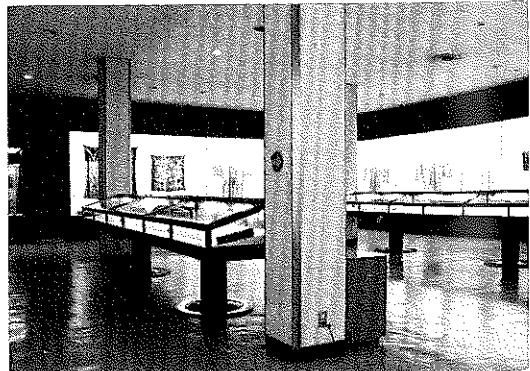
(1) 1階の展示



第 1 室

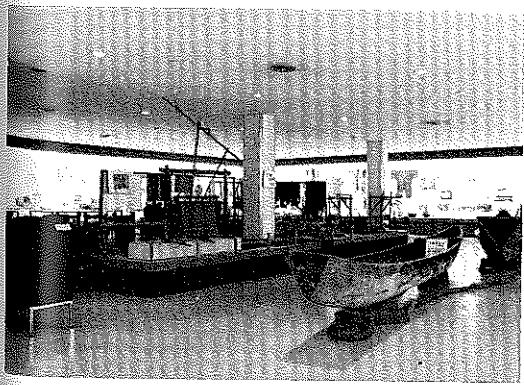
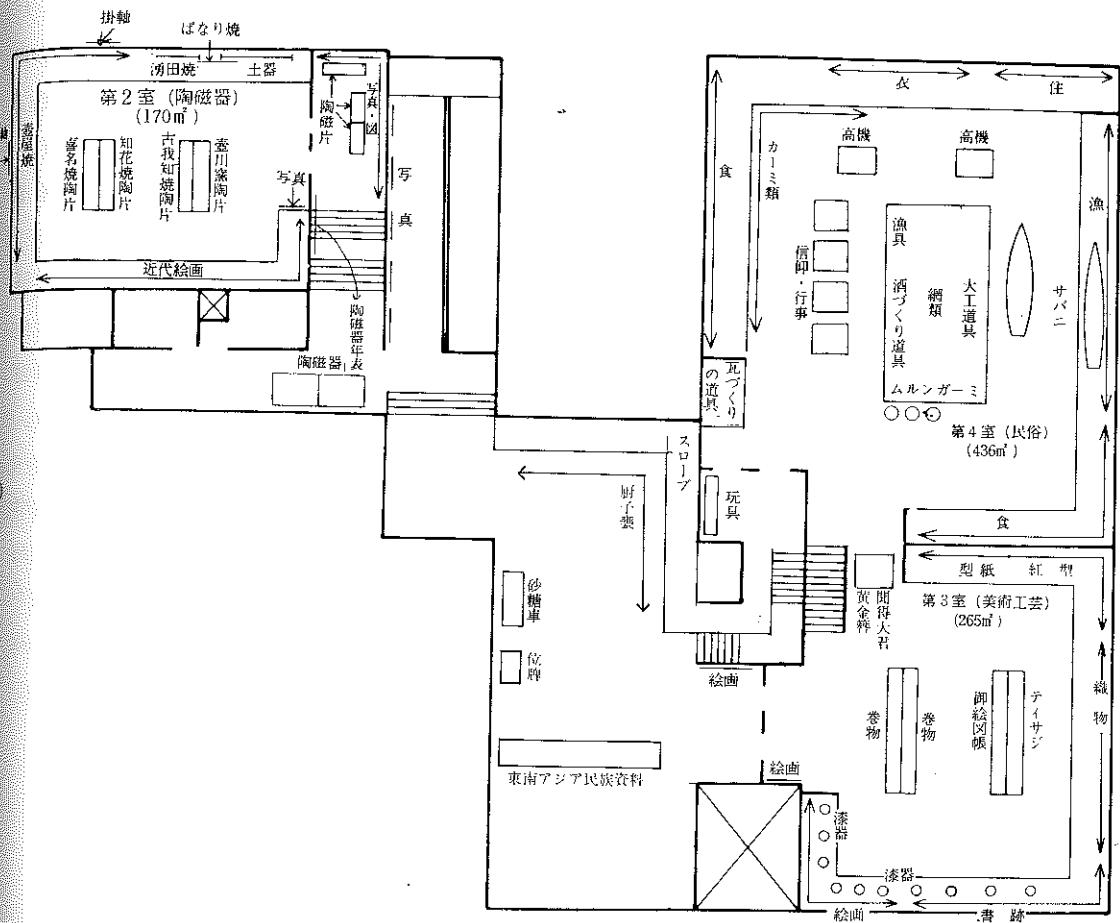


第 2 室

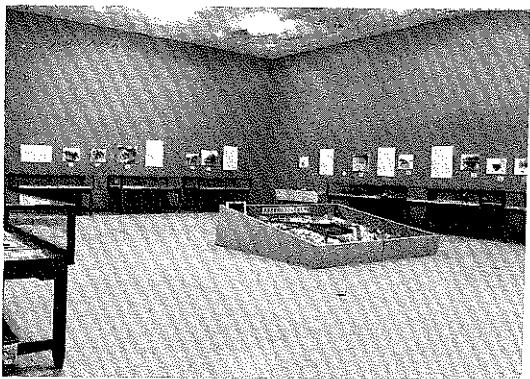


第 3 室

(2) 2階の展示 (常設展示)



第4室



第5室

1. 展示

(1) 概略

展示室は常設展示室4室、特別展示室1室からなり、内容は第1室が「歴史」(自然史・考古・歴史)、第2室「美術工芸I」(陶磁器・近代絵画)、第3室「美術工芸II」(書跡・絵画・漆器・染織等)、第4室「俗」となっている。第5室は特別展示室である。

第1室の第1テーマは「琉球列島のおいたち」で、沖縄の地質時代から始まっているが、この展示室に新たに両生類・爬虫類(トカゲ類)の展示が加わった。両生類は県指定天然記念物の「イボイモリ」など5科7属13種、爬虫類(トカゲ類)は国指定天然記念物の「キシノウエトカゲ」など4科12属19種である。自然史系常設展の充実は焦眉の課題である。本年度はチョウジヤガイ科のリュウグウオキナエビスなどの海産貝34科422種833点を購入。さらに、11月に開催した日本対外文化協会、球球新報社と共に「失われた生物たち一大恐竜展」に出品された恐竜等のレプリカのうちサウロロフス、プロトケラトプス、マンモスなど10点を購入した。これらの資料は次年度の展示替え以降常設展に加え、より充実した内容にしていきたい。

常設展示室の壁面の汚れが目立ち始めたため、今年度から壁面の張り替えを開始した。同時に照明も調光可能な間接照明に替えることにし、まず第2室(美術工芸I)の改修を実施した。次年度は第1室(歴史)、第3室(美術工芸II)の改修を行う予定である。なお、第1室の解説、図表の一部も業者に発注製作させ、取り替えた。

当館主催の特別展は「新収蔵品展」(昭和55年5月9日～22日)、「琉球のシダ植物展」(8月1日～9月14日)、「失われた生物たち一大恐竜展」(11月1日～30日)、「義村朝義展」(昭和56年1

月10日～25日)、「渡名喜島の原始古代展」(2月3日～22日)である。「失われた生物たち一大恐竜展」は第1室、第5室の常設展および講堂の椅子を撤去して開催し、他は第5室を使用した。特別展のすべてにポスター、図録を出すことができたのは今年度が初めてであり、当館としては画期的な事である。

現在の常設展の大枠は、昭和48年の2階増築後にできあがったものだが、それから7年、全国の博物館における常設展の展示法は格段の進歩を遂げ、見学者の水準も高まってきている。そこで当館でも常設展の全面改革にとりくむべく、今年度はその第1段として自然史、考古学、歴史学および学校教育の専門の方々10余名にお集りいただき、「常設展検討委」を開催、意見を提出してもらった。次年度から県外博物館の視察研修、展示専門業者からの情報収集、展示シリオづくりにかかりたい。

(2) 特別展

イ 新収蔵品展

会期 昭和55年5月9日(金)~22日(木)

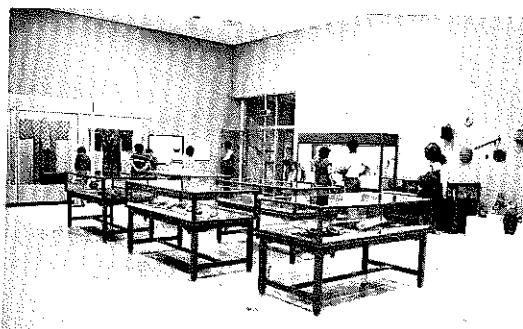
会場 第5室

昭和54年度に購入、寄贈、収集された資料を紹介する特別展である。同年度は購入17点、寄贈560点、収集21点の合計598点となっている。

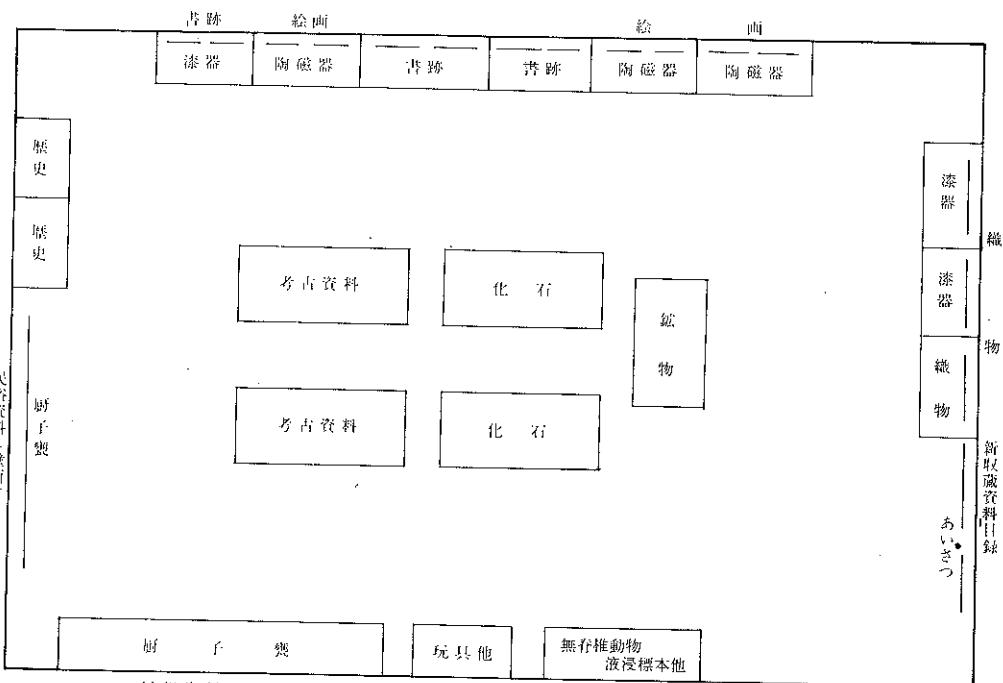
分類別に見ると民俗124点、自然史102点、歴史97点、書跡63点、陶磁器53点などが多い。購入品で目立つのは漆器の「潤塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱・硯箱」、陶器の「赤絵ブドウ文酒注」、絵画の「琉球船の図」、書跡で「鄭嘉訓書卷物」、鉱物の「石膏」など。寄贈品では彦根市の井伊文子氏による「龍瑞雲青海立波文唐織衣裳」な

どの織物、「朱漆鳳凰瑞雲箔絵小櫃」、あるいは東京都の長坂千代氏寄贈による義村朝義関係資料が際立っている。

紅型舞台幕など会場の都合で展示できないものを除いて、新収蔵資料の大半を展示了。



展示場風景



新収蔵品展

入口

□『琉球のシダ植物』

会期：昭和55年8月1日(金)～9月14日(日)

会場：特別展示室（第5室）

シダ（羊歯とも書く）植物というのは……花が咲かず、胞子をつくって繁殖する隠花植物の仲間で、本体は大きく根・茎・葉がはつきりと分化し、また、進化の段階で水中生活から陸上に移行し、陸上での生活に適応した最初の植物である。

この種類は、世界で約12,000種知られ、わが国には約900種ほど自生しているが、そのうち約270種が沖縄諸島に分布している。また、この植物は、沖縄県だけに限ってみられるいわゆる固有種がおよそ7種もあり、さらに本県が北限あるいは南限になるなど特異な分布を示し、琉球列島の成り立ちを考えるうえからも貴重なものである。

今回の特別展は、この貴重なシダ植物について、まずよく知ってもらうことと、この植物を通してみた琉球列島の自然について再認識してもらうことを目的に企画したものである。

展示場は、約142種の腊葉標本と生態標本それに写真・スケッチ図で構成し、さらに顕微鏡数台を設置して、胞子の観察を行った。胞子観察の所では、はじめて顕微鏡をのぞいたという大人に大いに人気があったようだ。

展示期間中、シダについての質問用紙を用意し、後日回答を送付するという方式をとった。外国からのもの含め、およそ40人から質問があった。また、県外の多くの方々からの問い合わせがあったし、さらに専門にしておられる方々からの助言もあった。誌面を通じて御礼を申し上げます。

この特別展期間中の8月30日(土)には、島袋守成氏（現県立読谷高等学校教諭）による、同名

の文化講座が行われた。展示会場で、資料を眼のあたりにして行われた講演会には、多数の人人がつめかけ盛況であった。

なお、この特別展を実施するにあたり、島袋守成氏には貴重な標本と図録作製の諸資料を提供していただいた。そのほか、シダのスケッチ作図それに展示に関して指導助言をいただいた伊波善勇氏（県立読谷高校教諭）、中村直（琉球大学教養部助教授）、豊見山元（県立宜野座高校教諭）、仲田明美（県立久米島高校教諭）それに祝嶺礼子嬢以上、各氏に衷心から御礼を申し上げます。

また、特別展期間中、会場内にてシダを主体とした活花を活けて展示会を盛りあげていただいた長嶺栄子さんに御礼を申し上げます。

〈担当：大城逸朗〉

※総観覧者数 13,171人

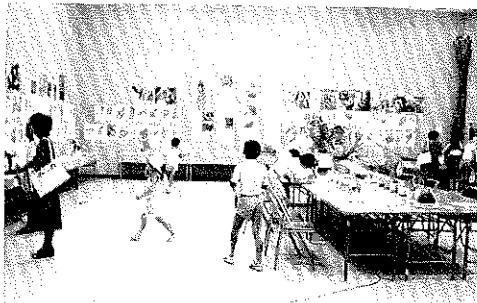
主な展示品目録

- ★
1. シダ植物腊葉標本……………23科 142種
2. " スケッチ図……………30枚
3. " 生体標本……………18点
4. " 生態写真……………50枚
5. " 化石標本……………1点
6. " 顕微鏡観察標本……………4点
7. " 説明、解説パネル……………12枚

★マツバラン科(1)：マツバラン、イワヒバ科(4)：カタヒバ、ミドリカタヒバ、イワヒバ、キールンクラマゴケ、ヒカゲノカズラ科(3)：ミズスギ、ヨウラクヒバ、リュウキュウヒモラン、ハナヤスリ科(5)：コブラン、ハマハナヤスリ、コハナヤスリ、コヒロハナヤスリ、ミヤコジマハナワラビ、リュウビンタイ科(1)：リュウビンタイ、ゼンマイ科(1)：シロヤマゼンマイ、カニクサ科(3)：イリオモテシャミセンヅル、カニクサ、カンザシワラビ、ミズワラビ科(1)：ミズワラビ、ウラジロ科(1)：コシダ、ヘゴ科(2)：クサマルハチ、ヘゴ、コケシノブ科(5)：ソテツホラゴケ、オ

ニホラゴケ、オオカンシノブホラゴケ、ツルホラゴケ、リュウキュウホラゴケ、キジノオシダ科(1)：タカサゴキジノオ、スジヒトツバ科(1)：スジヒトツバ、ワラビ科(2)：主なもの、ミミモチシダ、ワラビ、リュウキュウイノモトソウ、モエジマシダ、フモトシダ、シシガシラ科(1)：オオギミシダ、シノブ科(6)：ワラビツナギ、シマキクシノブ、キクシノブ、タマシダ、ホウビカンジュ、オシダ科(9)：主なもの、オキナワカナワラビ、オキナワキジノオ、シロヤマシダ、リュウキュウキンモウワラビ、タイワンジュウモンジシダ、ヤエヤマトラノオ、エラブコウモリシダ、カレンコウアミシダ、チャセンシダ科(9)：イエジマチャセンシダ、マキノシダ、ラハオシダ、ヌリトラメオ、シマオオタニワタリ、トキワトラノオ、クルマシダ、ホウビシダ、オオトキワシダ、シシラン科(3)：シマタキミシダ、シシラン、アマモシシラン、ウラボシ科(0)：主なもの、イワヒトデ、リュウ

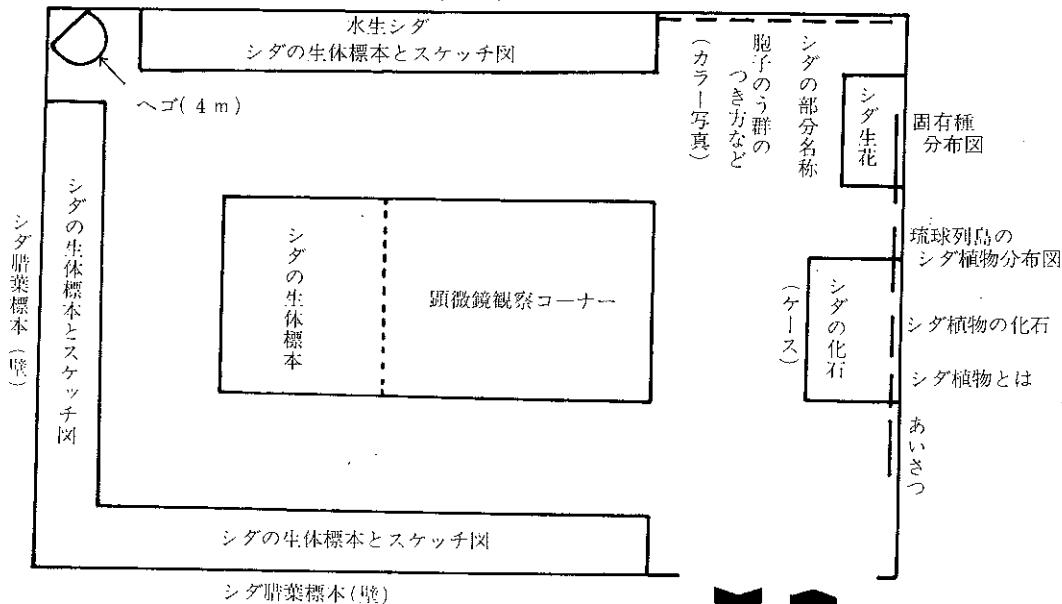
キュウミツデウラボシ、リュウキュウマメヅタ、ノキシノブ、ヒメウラボシ科(1)：シマムカデシダ、トクサ科(1)：イヌトクサ、ヤブレガサウラボシ科(1)：ヤブレガサウラボシなど。



展示場風景

展示配列

シダ贈葉標本（壁）



八 ソ連科学アカデミー「失われた生物たち—大恐竜展」

主催：当館・琉球新報社・日本対外文化協

会・ソ連科学アカデミー

会期：昭和55年11月1日(土)～30日(日)

会場：第1室、第5室、講堂

この特別展は、昭和54年2月以来、本土各地の主要都市で開催されていたもので、古生代(5億～2億7千万年)、中生代(2億～6千5百万年)それに新生代(6千5百万年以降)の地質時代の主要な化石標本類を一括展示し、県民に正しい地球発達の歴史を紹介することが目的であった。

展示品は、タルボサウルスなど肉食恐竜をはじめ、マンモスのような大型哺乳動物など、地質時代の代表的な化石の実物およびレプリカ標本など174点、生物の復元図および背景画など52点それに解説および説明パネル39点を使用した。展示室は、生命の誕生に始まり、生物の進化や発達の様子が順序よくわかるような導線にするために第1室→第5室→講堂を利用した。特に、第1室は、常設展を中止し、展示品をすべて撤去して大改造をしたし、講堂では、恐竜類を自然に近い姿勢で展示したために400席余の固定椅子を取りはずすなど、当館はじまって以来の大幅な内部工事をやったのである。その効果あって、高くて広々とした講堂に展示された恐竜は、天井に写しだされた影絵と共に、迫力ある展示となり、多くの観客に驚愕と感銘を与えたようである。

展示期間中に、県内の小・中・高校それに外人学校や県外の学校など136校から3万人余の団体見学があり、あわせて延べ166,445人が観覧したことになる。しかし、1日に多い時で18,000人余もつめかけたが、これは当初の目的

を達せないばかりか、当館にとって収容能力をはるかに越えており、今後、この種の特別展をやるにあたり、反省すべきこととなつた。

なお、この特別展は「地理的に遠隔な沖縄の児童生徒にも本土の児童生徒と同様の夢を与えたい」という気持から、日本対外文化協会およびソ連科学アカデミーの特別な計らいがあつて実現したものであった。開催当日には、駐日ソビエト社会主義連邦共和国公使C.L.リュードビック氏やV.N.ニコライエビッチ三等書記官に来館いただき、さらにモスクワから直接かけつけていただいたソ連科学アカデミー古生物学研究所のT.L.ペトロビッチ所長およびN.N.クラマレンコ前所長など、それぞれの方からご挨拶をいただいた。また、ソ連科学アカデミーからは、特別展示品として草食恐竜プロトケラトプスの卵の化石を持参していただくなど、多大なご配慮もいただいた。

特別展開催の初日(11月1日、土)には、県教育センターの講堂を借用して、特別講演会も実施した。講師は、太田正道氏(北九州市自然史博物館開設準備室次長)と長谷川善和氏(横浜国立大学教授)で、演題は各々「琉球の自然と自然史博物館」、「日本の古脊椎動物と琉球列島」で行われた。参加者は、250人をこえ、大盛況のうちに終った。

また、この特別展期間中に、多くの県民から化石のことについて質問があつたし、さらに新しい化石資料の寄贈もあった。御協力に対して心から御礼を申し上げたい。

〈担当：大城逸朗主任学芸員〉

※総観覧者数 166,445人

展示品目録

① 地球上 太古の生命

ヤクトフィトン	1ヶ
ミンジャリアン	1ヶ
バイカリア	1ヶ
ティラジアナ	1ヶ
ブトリジニウム	1ヶ

② 古生代の海

海ユリ	12ヶ
スポラドセラス	3ヶ
ポロホセラス	3ヶ
スポラドセラス	2ヶ
プロゴニオクリメニア	2ヶ
シールド・クリメニア	2ヶ
プロロビイテス	5ヶ
プセウドクリメニア	4ヶ
プロトクシクリメニア	1ヶ
クリメニア	2ヶ
ボトリオレピス	2ヶ
アスピドステウス	2ヶ
トルノセラス	3ヶ
スママクリメニア	1ヶ
ティマニテス	2ヶ
ヨーニティーテス	2ヶ
イグゴモケラス	1ヶ
ウラロチラス	2ヶ
バラガストリオケラス	2ヶ
イリホセラス	1ヶ
ネオズリフィオケラス	1ヶ
ヘリコプリオンの歯	1ヶ
リノプロドウクトウス	3ヶ
ヘテテス	1ヶ
ボトリオフイリュム	2ヶ
ベレロフォン	2ヶ
ホリスチラス	3ヶ
アルシテス	3ヶ
メトウリコツテア	1ヶ
メイエケラ	1ヶ
ザラソセラス	1ヶ
ボラホセラス	1ヶ
ネオプロホリテス	1ヶ
プラチゴニアティイッテス	1ヶ
フィンモセラス	1ヶ
アリストテラス	1ヶ
ウラロプロホリテス	1ヶ
パティリオセラス	1ヶ

③ 中生代の海

スピドニセラス	1ヶ
ウエルガチテス	1ヶ
クラスペヂテス	1ヶ
ツイリンドルテウチス	1ヶ
バテブチス	2ヶ
アスタルテ	2ヶ
リンホネラ	2ヶ
ブレウロトマリア	5ヶ

④ 古生代の陸

プラチオボサウルス	1ヶ
エリオスークス	1ヶ
ドウイノサウルス	1ヶ
トースークス	1ヶ
ペントースークス	2ヶ
エステメノースークス	1ヶ
イワントサウルス	1ヶ
イノストランケピア	1ヶ
デイキノドン	1ヶ
パレイアサウルス	1体

⑤ 中生代の陸

シッタコサウルス	1ヶ
タルボサウルスの歯	1ヶ
前足の爪	1ヶ
後足の関節	1ヶ
タルボサウルスの頭骨	1ヶ
サウロロフスの頭骨	1ヶ
サウロロフスの蹄	1ヶ
カラウルス	1ヶ
プロバクトサウルス	1体
サウロロフス	1体
サウロタッチ	3ヶ
恐竜系統樹パネル	1枚
タルボサウルス	1体
プロトケラトプス	1体
卵 1箱 化石 1ヶ	
ワニの歯	3ヶ
ガリミムス	1ヶ
ゾルデス	1ヶ
サイカニア	1ヶ
モンゴロテリウム	1ヶ
エンテロドン	1ヶ
エムボロテリウム	1ヶ
キロテリウム	2ヶ

⑥ 新生代

ケルワビドスの角	2ヶ
----------	----

ケルワビドス	4ヶ
ヒツパリオンの足	8ヶ
ヒツパリオンの頭	1ヶ
ヒツパリオンの歯	5ヶ
プラチベロドン	2ヶ
ジゴロフオドン	3ヶ
ハイエナ	2ヶ
エラスマテリウム	1ヶ

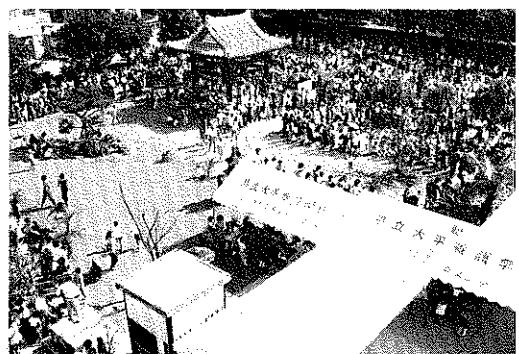
毛サイの毛	数点
マンモスの毛	タ
マンモスの歯	1ヶ
ケトテリウ	1体
サハリノケトス	1ヶ
メガロケラス	1体
ステラ海牛	1体
マンモス	1体
赤ちゃんマンモス	1ヶ



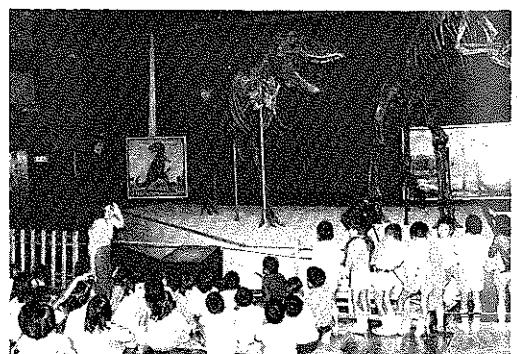
開会式及びレセプション



展示場内

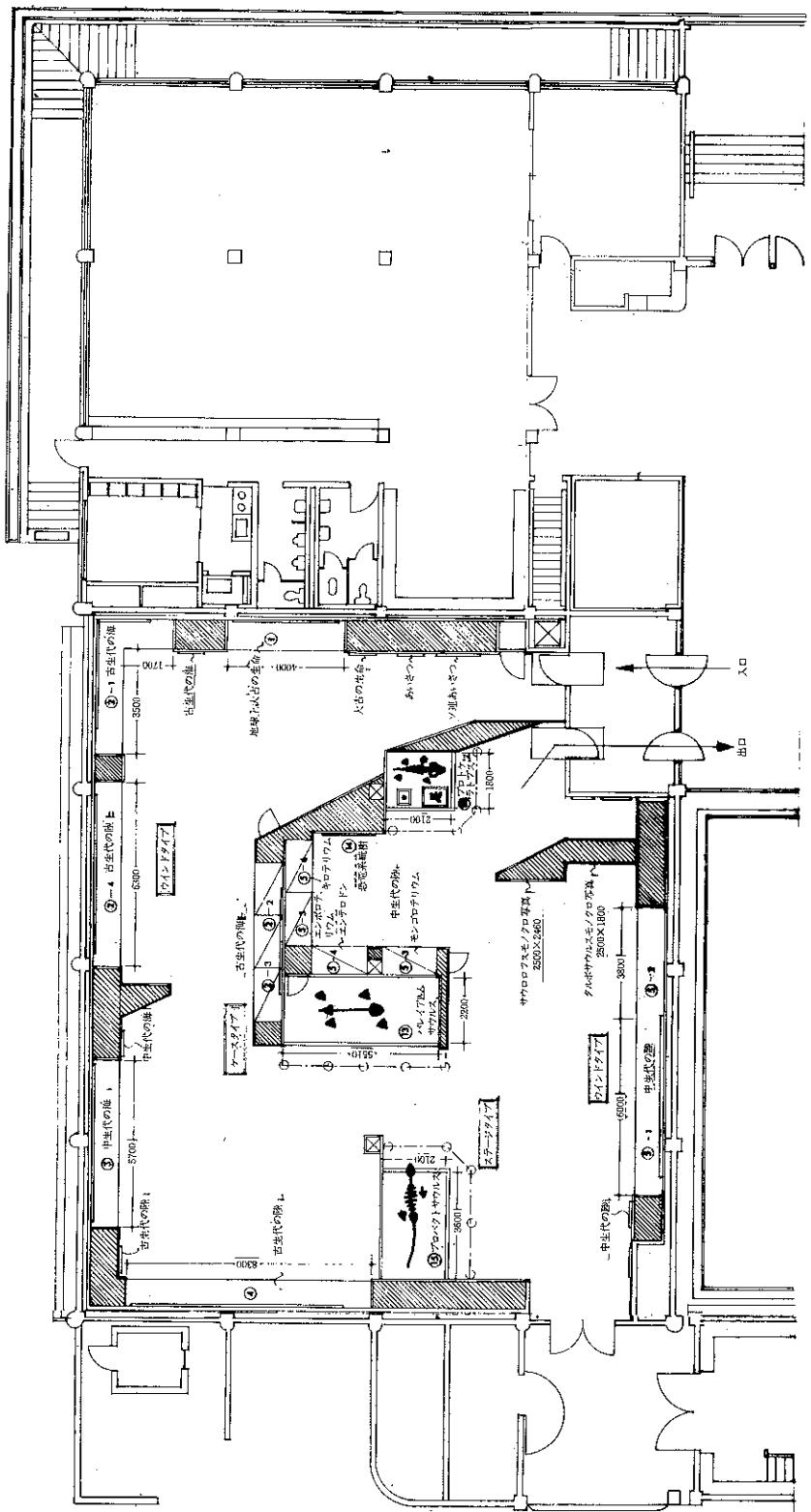


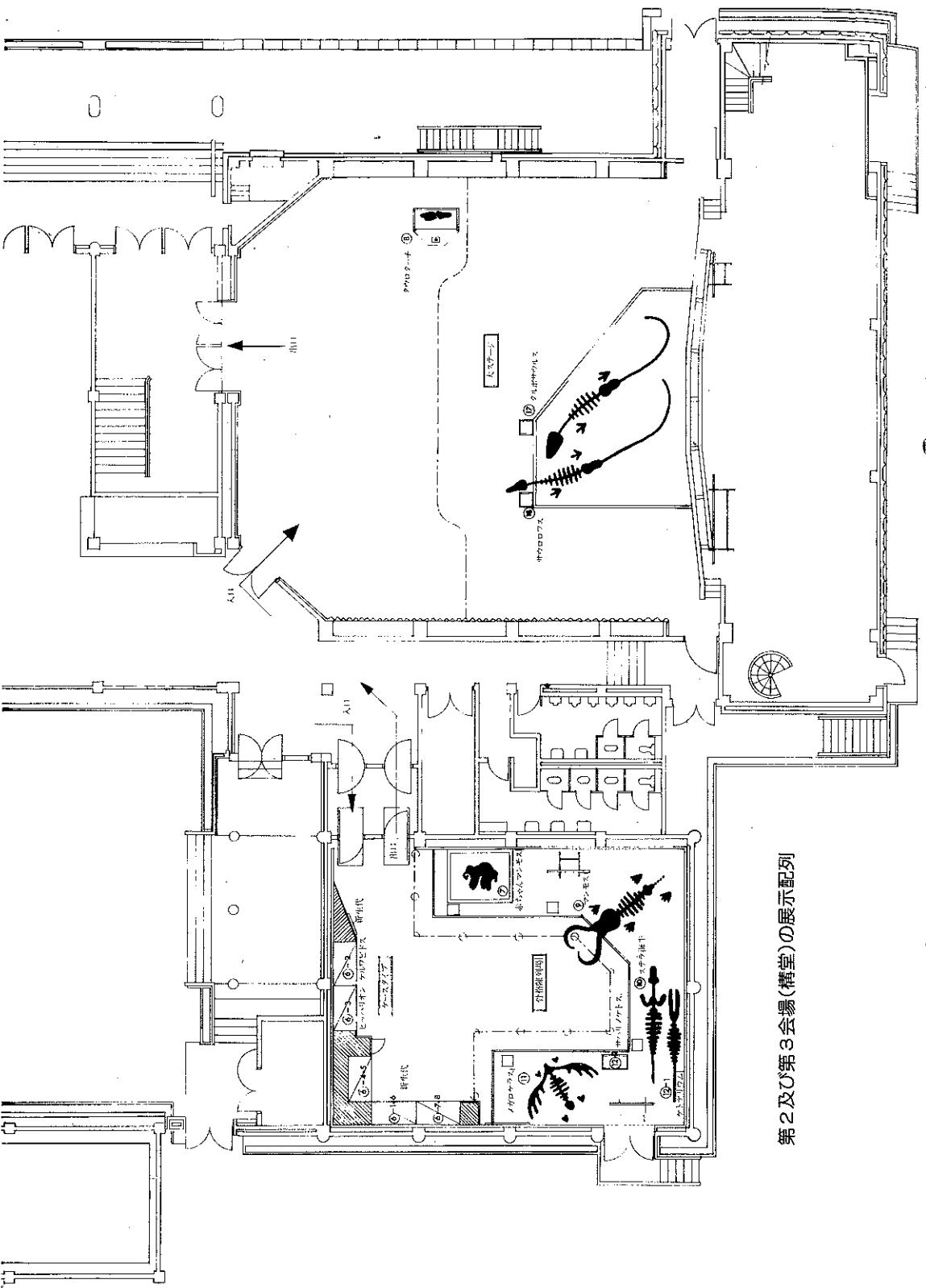
入館者の長蛇の列



展示場内

第1会場の展示配列





第2及び第3会場(精堂)の展示配列

二 義村朝義展

昭和56年1月10日(土)~1月25日(日)

特別展示室

昭和56年の年明け最初の行事として「義村朝義展」を開催した。故義村朝義書画約50点と漆器・印鑑・写真によって構成された。

これは昭和54年9月、東京の長坂千代氏から寄贈されたものである。作品はほとんどが未表装のままなので、当館では特別予算を55年度に計上して全点の表装整備を行い、さらに特別展を企画した。

義村朝義は、旧琉球王族の出で、廃藩置県から日清・日露の激動期に生き、さらに大正・昭和期にわたって活躍した「歴史的な人物」である。幼少のころから空手・棒術・剣道・馬術など武術百般にわたって修業を積んだ。晩年は琉

球音楽や書道・絵画まで芸道をひろげた。作品には、その古武士然とした風格がにじみ出しており、独特な書風や画風が人目をひいた。昭和20年3月、疎開先の大坂で大空襲にあい、波瀾の生涯をとした。

初日の10日は、朝義三男の禎孝氏、東京から三女の千代氏、孫娘のさと子さんらが参列し、テープカットを行った。県教委からは金城教育次長をはじめ関係者多数が列席した。テープカットに先だって、博物館長から長坂千代氏に対し、感謝状が贈呈された。

文化講座は、比屋根照夫琉大助教授を講師に迎え、「沖縄近代史の人物群像」と題してなされた。廃藩置県以後の脱清人にスポットをあてた内容で、朝義の人物を浮き彫りにすることができた。

展示品目録

書跡の部

	品名	数量	法量	備考
1	不知之句	1	130.0×32.5	
2	慶忌之句	1	131.0×32.5	
3	男児之句	1	137.0×34.5	
4	寿と詩	1	141.0×35.0	
5	八幡大武神	1	132.0×33.3	
6	緑竹静観	1	129.0×33.0	
7	春生竹葉	1	134.5×41.5	
8	朝義小品集	8	33.0×23.0	
9	浮生	1	140.0×41.5	
10	月到	1	143.5×35.0	
11	一能勝人	1	136.0×35.8	
12	国為	1		
13	狗國	1	135.0×42.0	
14	海闊	1	140.0×35.0	
15	孤雲	1	140.0×34.5	
16	迎寿享福	1	134.0×35.0	
17	春生竹葉	1	148.0×35.0	
18	百事如意	1	34.7×113.0	扁額
19	詩(小品)	1	32.7×15.5	
20	尚志礼讐	1	27.0×46.0	
21	方正学四箴	1	30.0×66.5	
22	国正天心	1		

絵画の部

	品名	数量	法量	備考
1	朝日と波図	1	133.5×37.5	
2	鍾馗の図	1	136.0×34.8	

	品名	数量	法量	備考
3	山水図	1	132.8×40.2	
4	山水図	1	125.0×36.2	
5	梅の図	1	135.7×32.6	
6	岩に蘭図	1	136.0×35.0	
7	松竹梅図	1	139.0×55.0	
8	不老長春	1	137.5×34.5	
9	鶴と竹図	1	136.0×34.3	
10	でいご花図	1	137.6×35.0	
11	白梅図	1	138.5×34.5	
12	武将乗馬之図	1	131.5×41.5	
13	牡丹の図	1	132.7×40.5	
14	おもとの図	1	139.5×34.7	
15	蓮花おし鳥図	1	138.0×41.0	
16	瑞歌と竹図	1	137.3×35.5	
17	抱節竹図	1	138..×34.7	
18	岩に竹図	1	138.3×35.0	
19	岩に蘭図	1	35.2×91.0	
20	寿老人	1	128.0×45.0	
21	得寿自画像	1	131.7×32.7	
22	單鶴之図	1	114.3×35.0	

その他

	品名	数量	法量	備考
1	朱漆牡丹七宝織紋文庫	1	31.8×27.4, h 11.1	漆器
2	印鑑	1	4.3×4.3, h 4.5	印
3	義村家御墓の図	1	51.5×62.0	絵画

木 渡名喜島の原始・古代展

会期：昭和56年2月3日～2月22日

会場：特別展示室（第5室）

同展は、昭和52年と昭和53年に渡名喜島教育委員会によって、発掘調査された成果を一般に公開する目的で村教育委員会との共催で開催された。

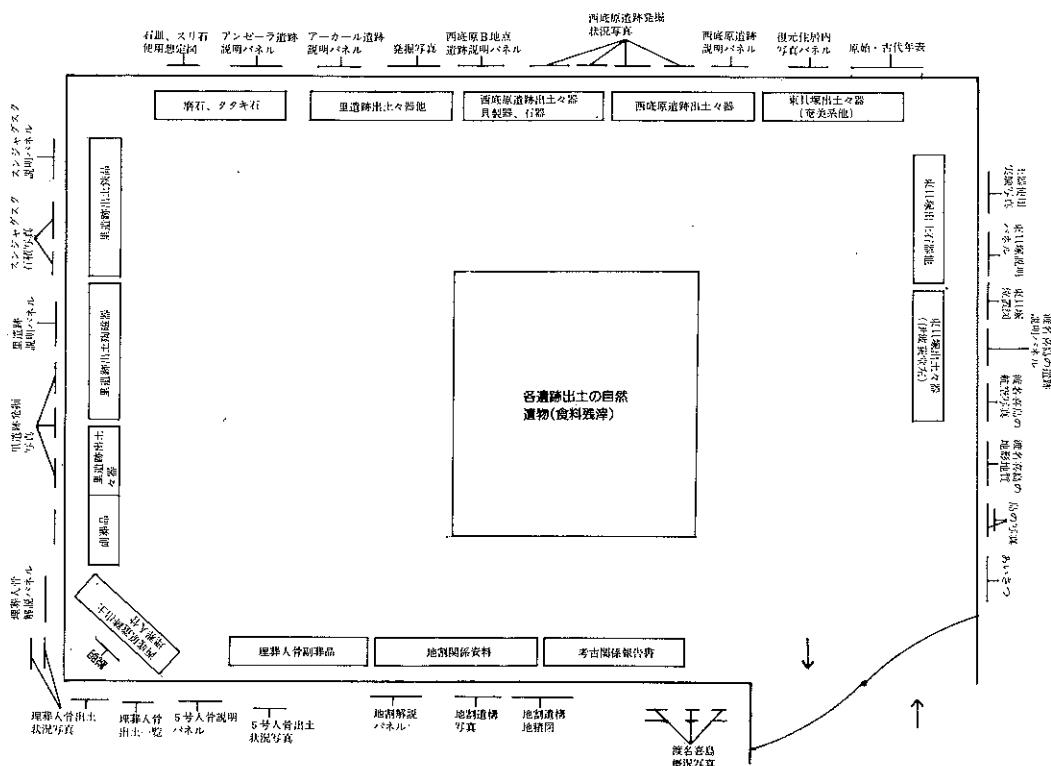
展示は発掘調査の成果をふまえて、村内各遺跡の出土品を時代順に展示し、それに対応して各遺跡の解説と発掘状況写真を配列し渡名喜島の原始・古代の生活がある程度想定できるように配慮した。

渡名喜島では特に埋葬人骨が多く出土している。そのうち樹脂加工され取り出された人骨1個体と埋葬人骨の出土状況の写真パネル及び副葬品をまとめ埋葬コーナーを設け好評を得た。

また、渡名喜島には地割遺構もよく残っているので、写真と古地積図等で概略した。

主な展示資料は、東貝塚、アーカル原遺跡、西底原遺跡、アンゼーラ遺跡、里遺跡等の出土土器、石器、貝製品、陶磁器、古銭、鉄製品等の人工遺物と貝類、獸魚骨等の自然遺物及埋葬人骨等の遺物及び各遺跡の解説パネルと発掘中の写真パネル及び島の概況説明と航空写真等である。

会期中の21日には当真嗣一（文化課主任専門員）による「考古学上から見た渡名喜島」と題して文化講座が実施された。その内容は渡名喜島の原始・古代の概説がなされた後、展示中の資料について詳しい解説が行なわれた。同講座には那霸市在住の村出身者が多く参加したのが目立った。



第5室（特別展示室）展示一覧

期 間	展 示 会 名	主 催
昭和55年		
5/9(金)～5/22(木)	新収蔵品展	当 館
6/13(金)～6/15(日)	琉染展	琉 染
6/24(火)～6/29(日)	三大学美術合同展	琉大・沖国大・沖大 3 大学 美術クラブ
7/12(土)～7/24(木)	国・県指定文化財天然記念物展	沖縄県教育委員会
8/1(金)～9/14(日)	琉球のシダ植物展	当 館
9/17(水)～9/25(木)	奥原崇典水墨画展	奥原崇典
10/5(日)～10/15(火)	安次富長昭「抽象への展開」展	安次富長昭
11/1(土)～11/30(日)	失われた生物たち－大恐竜展	当館・琉球新報社 日本対外文化協会 ソ連科学アカデミー
昭和56年		
1/10(土)～1/25(日)	義村朝義展	当 館
2/3(日)～2/22(日)	渡名喜島の原始・古代展	当 館 渡名喜村教育委員会
2/26(木)～3/1(日)	首里高校染織デザイン科卒業作品展	県立首里高等学校
3/7(土)～3/8(日)	西原高校書道作品展	県立西原高等学校
3/13(金)～3/15(日)	首里高校書道作品展	県立首里高等学校
3/17(火)～3/19(木)	県立伝統工芸指導所展	県立伝統工芸指導所
3/22(日)～3/26(木)	琉大美術工芸科卒業作品展	琉球大学美術工芸科

2. 調査研究活動

本年度は、渡名喜村当局および村教育委員会の協力のもとに第2回目の総合調査を実施した。

渡名喜島は、那覇の西約50kmの所にある島で、上陸第1歩、山勝ちの光景にまず驚かされる。それに島の回りの海岸には、リーフがよく発達しているが、そのリーフに碎け散る波は、ドレスの白い縁どりを思わせ、島の自然の美しさを一層印象づけてくれるところである。

しかし、この島にも問題は多い。まず、人口が次第に過疎化していくことである。次に、ドロマイド採掘の動きがあることと、それに島の約4km北西にある入砂島が米軍の射爆場となり漁場を失っていること等である。その他、猛毒をもつハブが多いことでも知られた島である。そのため、山地へ踏み入るには思わずためらいが生じ、自然や考古関係の調査では、自から多くの制約を受ける結果になった。

しかし上述した環境のもとなればこそ、総合的な面からの調査が必要であり、それを記録に残すのは、大きい意義あるものと確信している。

なお、今回の総合調査の結果は、「渡名喜島の考古」について当真嗣一(文化課主任専門員)の協力も得て「博物館総合調査報告書II—渡名喜島(となきじま)—」にまとめた。

また、前回粟国島で実施した総合調査の成果の一部は、同島で行った第3回移動博物館(昭和56年5月15~17日)で披露した。演者・演題は次の通りである。

- ・大城逸朗(主任学芸員)「粟国島の地質とおいたち」

- ・知念 勇(学芸員)「粟国島の原始・古代」

その他、各担当学芸員の調査・研究活動の成果は「沖縄県立博物館紀要」第7号にまとめられている。

次に、本年度内(昭和55年4月~昭和56年3月)の各担当職員の調査研究を簡単に述べる。

(1) 調査研究活動の状況

上江洲 均(学芸係長)

7月: 古文書調査(久米島、依頼、8~10日)
8月: 民俗行事調査(久米島、依頼、4~7日)
9月: 八月行事調査(伊平屋島、依頼、19~23日)

10月: 民具調査(渡名喜島、22~27日)

12月: 古文書調査(東京、依頼、2~7日)
56年2月: 民俗調査(久米島、依頼、18~23日)

宮城篤正(教育普及係長)

6月: 陶磁器調査(渡名喜島、9~12日)
7月: 絵画・陶磁器調査(久米島、依頼、8~10日)

8月: 陶磁器調査(中城村、9日)

" " (石川市、依頼、12日)
56年1月: " (多良間島、20~23日)

大城逸朗(主任学芸員)

8月: 地質調査および資料収集(伊平屋島、依頼、12~16日)

12月: ピンザアブ洞穴の調査(宮古島、26日)

56年1月: 於茂登岳の地質調査(石垣島、依頼、20~22日)

3月: 地質調査(渡名喜島、10~12日)

" : マヤアブ洞穴の調査及び化石資料採集(宜野湾市、17日)

渡名喜 明(学芸員)

56年3月: 総合調査(渡名喜島、18~20日)
知念 勇(学芸員)

6月: 朝日学術奨励金による考古学調査(沖縄北部、依頼、13~14日)

12月: グスク調査(渡名喜島、依頼、20~22日)

56年1月：伊武部貝塚の発掘調査（名護市、依頼、22～23日）

2月：野国貝塚の発掘調査（嘉手納町、依頼、5～7日）

3月：奄美の考古学調査（喜界島、24～28日）
当山昌直（学芸員）

8月：生物調査（渡名喜島、9～11日）

56年3月：両生爬虫類資料収集（国頭村辺戸奥、27～29日）

(2) 講演・研修活動および大会参加など
外間正幸（館長）

○九博協理事会および総会に出席（佐賀、5月27～29日）

○沖博協総会に出席（今帰仁村、7月17～18日）

○第28回全国博物館大会に出席（熊本、10月6～9日）

○九博協学芸員事務職員研修会に出席（那覇市、56年2月13～14日）

名嘉正八郎（副館長）

○第15回全国史跡整備市町村協議会大会に出席（那覇市、11月6日）

上江洲 均（学芸係長）

○『沖縄の民具について』近畿民具学会総会で講演（京都、5月3日）

○国立民族学博物館の国内資料調査委員会に出席（大阪、6月9～13日）

○国立歴史民俗博物館の展示プロジェクト委員会に出席（東京、6月29～7月1日）

○「九州の文化」展に立合いのため出席（佐賀、10月3～5日）

○古文書等の虫、カビ対策研修会に出席（東京（東京、10月16～20日）

○国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員会に出席（東京、11月10～11日）

○国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員会に出席（千葉、56年1月19～21日）

○九博協学芸員事務職員研修会に出席（那覇市、56年2月13～14日）

宮城篤正（教育普及係長）

○『沖縄の古窯』日本銀行職員研修会で講演（5月19日）

○『沖縄の美術』沖縄市小中学校図工・美術科教師を対象に講演（6月13日）

○『沖縄の美術工芸』浦城小学校婦人学級で講演（7月2日）

○『沖縄の陶器』壺屋陶器後継者育成講座で講演（9月16日）

○指定文化財取扱講習会に出席（京都、11月30～12月7日）

○九博協学芸員事務職員研修会に出席（那覇市、56年2月13～14日）

大城逸朗（主任学芸員）

○『山原のおいたち』第2回移動博物館（於今帰仁村）で講演（5月17日）

○『中国の旅』沖縄地学教育研究会で講演（5月23日）

○博物館職員研修会自然部門に出席（富山科学文化センター、6月1～4日）

○沖博協総会に出席（今帰仁、7月17～18日）

○『本部の地形と洞穴』本部町教育委員会主催の特別展で講演（10月4日）

○『琉球のおいたち』琉球大学理学部生物学科生を対象に講演（11月15日）

○九博協学芸員事務職員研修会に出席（那覇市、56年2月13～14日）

○『最近発見された洞穴堆積物について』日本地質学会プレ・シンポ沖縄大会で講演（3月28日）

渡名喜 明（学芸員）

- 沖博協総会に出席(今帰仁、7月17~18日)
- 沖縄県社会教育振興大会に出席(石垣市、56年1月24~26日)
- 九博協学芸員事務職員研修会に出席(那覇市、56年2月13~14日)
- 県外博物館視察(岐阜・名古屋・群馬・東京、56年3月24~28日)

知念 勇(学芸員)

- 貿易陶磁研究会に出席(京都、9月8~11日、東京、9月17日)
- 「南部の史跡めぐり」博物館文化講座で案内(9月17日)
- 南島地域発掘調査法検討会に出席(奈良、3月18~22日)

当山昌直(学芸員)

- 沖博協総会に出席(今帰仁、7月17~18日)
- 『沖縄群島の両生爬虫類相—1979年の調査結果よりー』第17回沖縄生物学会で講演(8月22日)
- 九博協学芸員事務職員研修会に出席(那覇市、2月13~14日)
- 博物館職員(学芸員資格取得)講習会(東京、12月1~21日)

(3) 著作・論文その他

名嘉正八郎(副館長)

- 『日本城郭大系I、北海道・沖縄』、藤本英夫共編、新人物往来社、1980年。
- 『渡名喜村略史』博物館総合調査報告書II—渡名喜島、1981年
- 『「御当国御高並諸上納里積記」記載事項年表』田里修、糸数兼治、渡名喜明と共に著、沖縄県立博物館紀要、第7号、1981年。

上江洲 均(学芸係長)

- 『沖縄の民具について』近畿民具、1980年。
- 『沖縄の厨子甕』国分直一博士古稀記念論

- 集「日本民族文化とその過渡」1980年。
- 『沖縄の信仰・儀礼・行事の民具』成城大学民俗学研究所、1981年。

- 『渡名喜島の民俗』県立博物館総合調査報告II—渡名喜島、1981年。
- 『久米島上江洲親雲上の「家記」』沖縄県立博物館紀要、第7号、1981年。

宮城篤正(教育普及係長)

- 『沖縄の陶器』世界陶磁全集7、江戸(二)、小学館、1980年。
- 『わたしの高校生活抄』養秀百年、首里高等学校、1980年
- 『目で見る浦添の歴史』浦添市史、第2巻、(一)1981年。
- 『渡名喜島の陶磁器』県立博物館総合調査報告書II—渡名喜島、1981年。
- 『線彫染付魚文皿のことなど』沖縄県立博物館紀要、第7号、1981年。
- 『琉球の荒焼』文化庁文化財保護部、1981年。
- 『擂鉢と陶製卸金のことなど』地域と文化第4号、1981年。

大城逸朗(主任学芸員)

- 『琉球列島のおいたち』琉球の自然史、木崎甲子郎編著、築地書館、1980年。
- 『石垣島の地形・地質概要』県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告、1981年。
- 『渡名喜島の地形と地質』県立博物館総合調査報告書II—渡名喜島、1981年。

渡名喜 明(学芸員)

- 『概説紅型』染織の美6号、京都書院、8月、1980年。
- 『紅型について』琉球紅型、京都書院、11月、1980年。
- 『渡名喜島と真綿』県立博物館総合調査報

告書II－渡名喜島、1981年。

- 『「御當國御高並諸上納里積記」記載事項年表』田里修・糸数兼治・名嘉正八郎と共に著、沖縄県立博物館紀要、第7号、1981年。

知念 勇（学芸員）

- 日本城郭大系第1巻「沖縄県」共著、新人物往来社、1980。
- 『貝塚時代の沖縄』郷土の歴史と文化下巻、新生図書、1980。
- 『読谷村の先史遺跡』読谷村立歴史民俗資料館紀要、第5号、1981年。

当山昌直（学芸員）

- 『宮古群島の両生爬虫類に関する方言』沖縄生物教育研究会誌、13号、1980年。
- 『渡名喜島の陸上脊椎動物』県立博物館総合調査報告書II－渡名喜島、1981年。
- 『沖縄群島の両生爬虫類相(1)』沖縄県立博物館紀要、第7号、1981年。

3. 資料収集活動

昭和55年度の収蔵点数は、購入が924点、寄贈が444点、収集8点、移管1点で合計1,377点であった。

そのうち購入の部では、毛長禧筆「花鳥図」、長嶺宗恭筆「芭蕉の図」、「謝花雲石書」の43点、「鄭章觀書」、「周煌書」、「赤絵魚文皿」、「朱塗沈金牡丹紋食籠」、「黒漆樓閣人物螺鈿中央卓」等の一級の資料を購入することができた。自然史資料でも800点の貝類標本と恐竜関係の資料を加えることができた。

寄贈の部では、南画で有名な東京の飯田満佐子氏から贈られた自作の「雪景山水図」や郷土出身の南画家池原清子氏の作品などが光る。書跡では謝花雲石使用の「毛筆」、陶磁器では、金城次郎氏作「嘉瓶」や島常賀氏作「屋根獅子」、染織では、「紅型踊衣裳」、歴史では、「17世紀

東南アジア地図」、貨幣では「B軍票」や「アルゼンチン紙幣・貨幣」、民俗では、110点に及ぶ「厨子がめ」、自然では、「南極の石」等が代表としてあげられる。

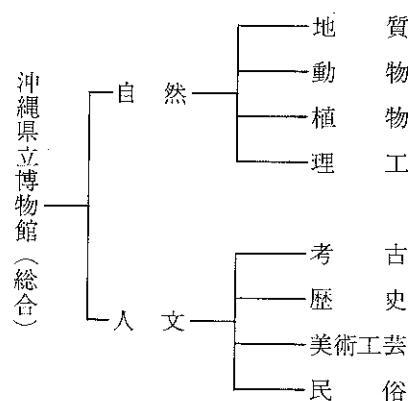
昭和55年度は、とくに購入品が充実した点特筆すべきである。

4. 資料整理

戦後の残欠資料の整理は、52年度で一応の終了を見たが、一部では現在も続けられている。

創立当時、陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8項目に分類していたのを昭和43年ごろから項目をふやし、現在17項目に分類している。とくに総合博物館にふさわしいようになると、自然、戦争資料、民俗、考古、歴史などを加えた。

しかし、この分類も不都合な点が多いため、そのための研究会をもち話し合いをすすめた結果、次のことを決めた。大きな柱として「自然」と「人文」をおく。自然の下に地質、動物、植物、理工をおく。人文の下には、考古、歴史、美術工芸、民俗をおくことで話が煮詰まり、56年度から実施することになった。



5. 資料保存・修理

(1) 燻蒸

本年度の燻蒸は、7月1日(火)～2日(水)と12月5日(金)～6日(土)の2回(48時間燻蒸)行った。例年通り地下収蔵庫、第1収蔵庫、漆器収蔵庫を密閉し、それに1階ロビー内に展示してある首里城正殿の模型や偏額等はビニールハウスをつくり、メチルプロマイド処理を行い、また各展示室をはじめその他の場所についてはスミチオン煙霧による防虫駆除を行った。第2回目は、特別展終了後引き続いて実施したため、時期が例年より早くなっている。

なお、地下収蔵庫を密閉するにあたり、糊を使用したらしく後日カビが発生した。即刻とり除いたが、今後施行会社に対し、後仕末を徹底するよう申し入れをした。

今回は、初の試みとして県民および市民の所有している資料の燻蒸をよびかけた。数件の問い合わせはあったものの、まだよく理解されてないようで、古文書1件があつただけである。この事については、今後も継続していく予定である。

(2) 博物館資料の修理

昭和55年度の資料修理状況は次の通りである。

●絵画：山田真山筆『達磨図』、金晴江筆

『へちまとかぼちゃ』、義村大鼎筆
『梅図』……各々軸表装をした。

●陶磁器：荒焼徳利他12点……漆による欠損部分の補修をした。

●漆器：朱漆山水堆錦椀、黒漆青貝文字入螺鈿文庫……各々剝離部分の補修をした。

●書跡：白邨書『萬国津梁の鐘銘』、義村朝義の書跡、絵画48点……各々表具をした。

●民俗：「高倉」……屋根の茅を部分的に交換補修をした。

●考古：土器4点、鬼瓦3点……各々復元補修をした。

諸修理に要した費用は、210万円で、70点余の資料を補修し、資料のより一層の充実を計ることができた。しかし、石彫、木彫をはじめ金工関係など去る大戦で破壊された資料がまだたくさんあり、早急に修理の年次計画をたて進める必要がある。

なお、今回は東京在住の長坂千代氏(義村朝義三女)から同家所蔵の義村朝義書画48点の寄贈があった。当館では、早速これらの書画を表具して完全なものとし、特別展(義村朝義展、昭和56年1月10日～25日)を開催した。

6. 教育普及活動

昭和55年度の博物館文化講座は4月の第73回「外国の博物館をめぐって」(琉球大学教授野原朝秀氏)を皮切りに毎月1回実施した。(詳しくは(1)博物館文化講座参照のこと)

この他に特別講演会として、11月1日に「沖縄の自然と自然史博物館」(北九州市自然史博物館開設準備室次長 太田正道氏)と「日本の古脊椎動物と琉球列島」(横浜国立大学教授 長谷川善和氏)を開催した。

第2回移動博物館が今帰仁村で開催された。
(詳しくは(2)移動博物館を参照のこと)

一階ロビーの一角に案内コーナーと友の会売店がある。観客から寄せられるいろいろな質問や団体等への展示解説を解説員が行なっている。友の会売店では博物館案内や特別展、総合調査報告書などを販売している。

(1) 昭和55年度の博物館文化講座

第73回、4月26日(土)、外国の博物館をめぐって 参加者42名 講師 野原朝秀(琉球大学教授)

(1)博物館は設立機関によって、また目的によっていくつかに分けることができる。(2)博物館の位置づけ、(3)博物館の展示物、(4)公共主として国立の博物館は学問的、あるいは今後の問題となりこんでいる。

第74回 5月24日(土) 紅型の世界 参加者

57名 講師 渡名喜 明(当館学芸員)

(1)紅型とは (2)「びんがた」の語義 (3)文献より (4)関係年表 (5)工程からみた紅型の特徴 (6)結び

第75回 6月28日(土) 南極のはなし 参加者

188名 講師 木崎甲子郎(琉球大学教授)

第21次南極観測部隊の活動のようすを地図、スライドを使ってわかりやすく紹介。

第76回 7月26日(土) しまうたのはなし 参加者 50名 講師 仲宗根幸市(しまうた研究会会长)

(1)はじめに (2)「しまうた」について (3)沖縄民謡界の現状 (4)民謡とは何か (5)民謡の種類 (6)南島歌謡の発生と起源 (7)歌掛け (8)歌と言霊(ことだま) 信仰 (9)逆歌について (10)ハヤシ詞と反復形式 (11)民間説話と歌謡の関連 (12)民謡研究の目的 (13)沖縄民謡界の課題

第77回 8月17日(日) 一絵画実習一博物館描こう 参加者24名

講師 神山泰治(琉球大学助教授)

神山先生の説明 指導を受けながら、博物館の展示物(資料)を対象にして、広く一般の人に絵を描いてもらい、最後に全員で合評する。

第78回 8月30日(土) 琉球のシダ植物 参加者36名 講師 島袋守成(読谷高校教諭)

(1)シダの見どころ (2)シダ植物の生育環境 (3)シダ植物の分布等について展示を見ながら解説する。

第79回 9月7日(日) 南部の史跡めぐり 参

加者116名 講師 名嘉正八郎(当館副館長)、知念 勇(同学芸員)

〈コース〉県立博物館→南山グスク→米須グスク→港川遺跡→玉城グスク→糸数グスク→百名第二貝塚→知念グスク→博物館解散

第80回 9月27日(土) 首里の織物 参加者

134名 講師 大城志津子(琉球大学教授)

(1)その歴史について (2)首里に織物が発達した要因は何であったか (3)織物の発生と風土 (4)御絵図帳について (5)織物の本質について (6)琉球絣の特殊性について (7)首里織物の種類 (8)今後の展開等についてスライドを併用して行う。

第81回 12月20日(土) 戦後沖縄画壇のあゆみ 参加者25名 講師 仲井間憲児(琉球大学講師)

戦後の沖縄画壇のあゆみを(1)終戦後石川に文化部から美術村ができるまで (2)美術村の活躍と3人と5人に分裂する (3)琉大に美術工芸科を設置 (4)沖展の模索(1949~53年) (5)沖展の定着(1954~57年)中堅画家中央展へ入選 (6)5人展の解散、美術評活発 (7)安谷屋正義氏等の美術批評を中心に新しい芸術への対応(1957~58年) (8)赤土会、創土会の結成、安谷屋と慶田両氏の絵画論争 (9)中央画壇の支部結成さかん、グループ展さかん(1967年以降) (10)県美術家連盟の結成一世代交代

第82回 1月24日(土) 沖縄近代史の人物群像 参加者70名 講師 比屋根照夫(琉球大学助教授)

(1)脱清行動の系譜 (2)脱清派の論理 (3)自由民権派の論理 (4)国家像と沖縄像の交錯

第83回 2月21日(土) 考古学よりみた渡名喜島 参加者49名 講師 当真嗣一(県教育庁文化課主任専門員)

渡名喜島での発掘調査の成果を中心に沖縄貝塚時代、前期、中期、後期、グスク時代について

概説する。

第85回 3月28日(土) 本土出かせぎ移住について 参加者25名 講師 石原昌家(沖縄国際大学助教授)

戦前、日本本土に出かせぎにいき、本土に定住した沖縄人について、具体例をあげながら沖縄人差別、蔑視のカベをこえて、沖縄人出稼ぎ労働者が本土社会に定住するにいたった理由について述べる。

特別講演会

11月1日(土)午後2:30~4:50

テーマ: 沖縄の自然と自然史博物館

講師 太田正道(北九州市自然史博物館開設準備室次長)

テーマ: 日本の古脊椎動物と琉球列島

講師 長谷川善和(横浜国立大学教授)

(2) 第2回移動博物館

昭和55年5月16日(金)~18日(日)

今帰仁村中央公民館

昭和54年度から実施している「移動博物館」の第2回目は、5月16日から今帰仁村で開催した。今帰仁村と同村教育委員会との共催で行ったもので、中央公民館の全館を使って展示・文化講座・映写会の各分野にわたって開かれた。展示会には、「戦前の沖縄写真展」「沖縄の天然記念物の動物写真展」のほか「沖縄陶器名品展」の展示ができた。陶器26点の中には“古我知焼水がめ”“同焼厨子がめ”など北部と関係の深い資料をはじめ、名品が展示された。

文化講座は、「山原の生いたち」(講師・大城逸朗主任学芸員)と「沖縄の陶器」(講師・宮城篤正教育普及係長)の二つのテーマで行われ、約50名の村民が熱心に聴講した。

映写会は、会期中毎日3回行われ、小中学生が熱心に見学した。映画は次の6本が上映された。

琉球の民芸(昭和15年、15分)

琉球の風物(同上 15分)

トンボの愛はハート型(30分)

酒だ忍法コノハチョウ(30分)

沖縄の冬!鳴く虫天国(30分)

壺屋の陶器(30分)

〈入場者数〉

学校団体 858人

個人 513人

合計 1,371人

〈主な展示物〉

「戦前の沖縄写真展」

鎌倉芳太郎氏によって、大正末期から昭和初期にかけて撮影された「首里城正殿」など、建造物、美術工芸、風物など117点が展示された。

「沖縄陶器名品展」出品目録				
順位	品名	時代	出典	説明
1	古我知焼水甕	17~18世紀	古我知窯	
2	古我知焼壺型厨子甕	"	"	
3	古我知焼壺型厨子甕	"	"	
4	鉄絵碗	16~17世紀	湧田窯	
5	なまこ釉香炉	18世紀	壺屋窯	
6	吳須絵中皿	20世紀	"	
7	緑釉碗	19世紀	"	
8	吳須徳利	"	"	
9	山水文丁字風炉	"	"	
10	山水文竹筒型花生	"	"	
11	赤絵山水文急須	18世紀	"	
12	屋根獅子	19世紀	"	
13	パナリ焼壺	18世紀	新城島	
14	荒焼徳利	18世紀	壺屋窯	
15	家紋入嘉瓶	19世紀	"	
16	赤絵菊花文対瓶	"	"	
17	なまこ釉からから	18世紀	"	
18	飴釉流徳利	"	"	
19	飴釉流油壺	"	"	
20	三島手抱瓶	"	"	
21	白釉流竹筒型花生	19世紀	"	
22	雲龍貼付文壺	20世紀	"	

23	牡丹獅子マリ貼付壺	"	"
24	芭蕉蘇鉄貼付大壺	"	"
25	雲龍貼付大壺	20世紀	壺屋窯
26	古我知焼陶片	17~18世紀	古我知窯

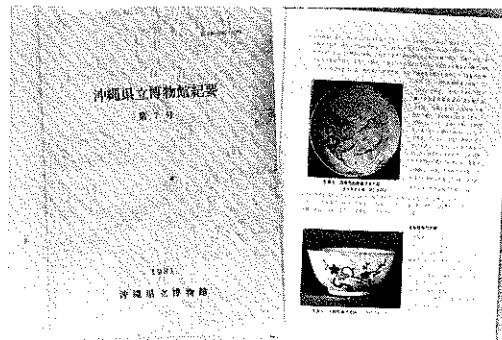
沖縄の天然記念物の動物写真パネル

- 1 コノハチョウ
- 2 フタオチョウ
- 3 アサヒナキマダラセセリ
- 4 イボイモリ
- 5 リュウキュウヤマガメ
- 6 セマルハコガメ
- 7 クロイワトカゲモドキ
- 8 キシノウエトカゲ
- 9 ノグチゲラ
- 10 アカヒゲ
- 11 カラスバト
- 12 リュウキュウキンバト
- 13 カンムリワシ
- 14 オキナワトゲネズミ
- 15 ケナガネズミ
- 16 ダイトウオオコウモリ
- 17 ジュゴン
- 18 ケラマジカ
- 19 イリオモテヤマネコ

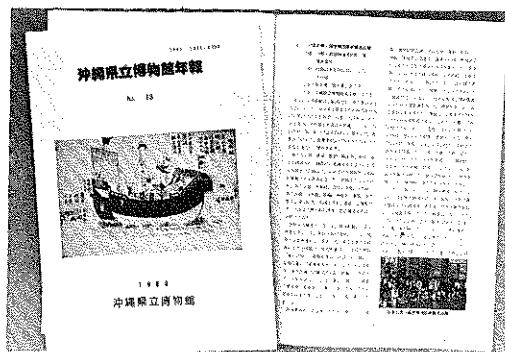
(3) 広報出版

昭和55年度の刊行物には次のようなものがある。『沖縄県立博物館紀要』第7号、『沖縄県立博物館年報』No.13、「博物館だより」No.9、No.10、『総合調査報告書II—渡名喜島一』、『楊氏医方類聚』、特別展では『新収蔵品展』、『琉球のシダ植物』、『失われた生物たち—大恐竜展』、『義村朝義展』、『渡名喜島の原始・古代展』(渡名喜村と共催)の図録ならびにポスター、『第二回移動博物館』(今帰仁村)のポスターなど。

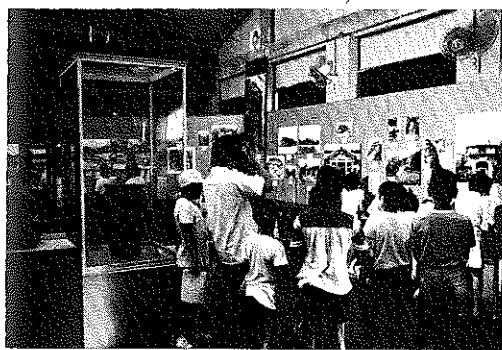
文化講座、特別展などの催し物については県内のラジオ、テレビ、新聞各社に報道を依頼して広く一般県民へのPRを行ない、あわせて、その都度、取材もして貰っている。



沖縄県立博物館紀要 7号



沖縄県立博物館年報 No.13



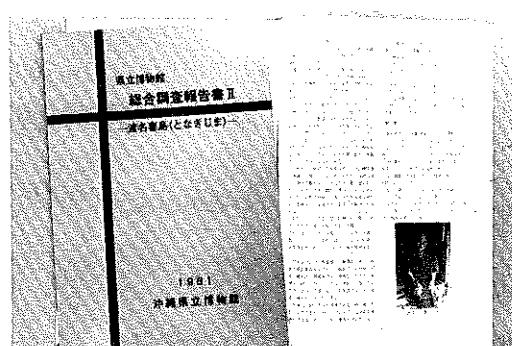
移動博物館展示場



博物館だより 9・10号



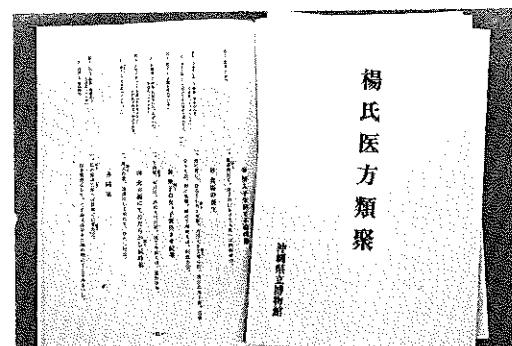
新 収 藏 品 展



県立博物館総合調査報告書 II



琉球のシダ植物



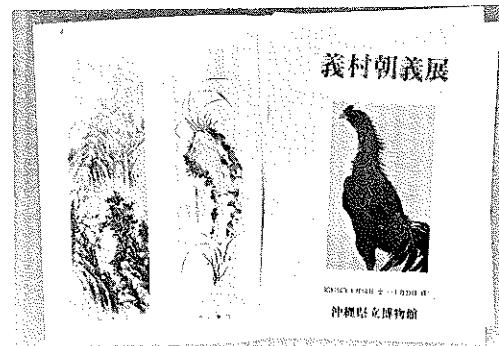
楊 氏 医 方 類 聚



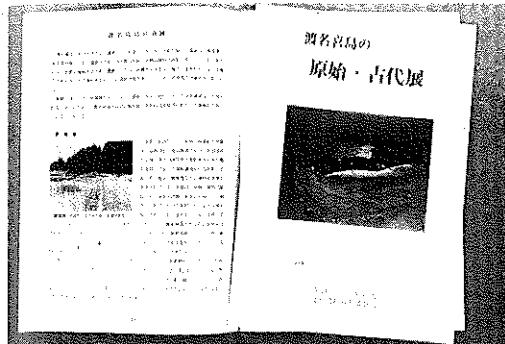
「失われた生物たち一大恐竜展」



博物館案内リーフレット

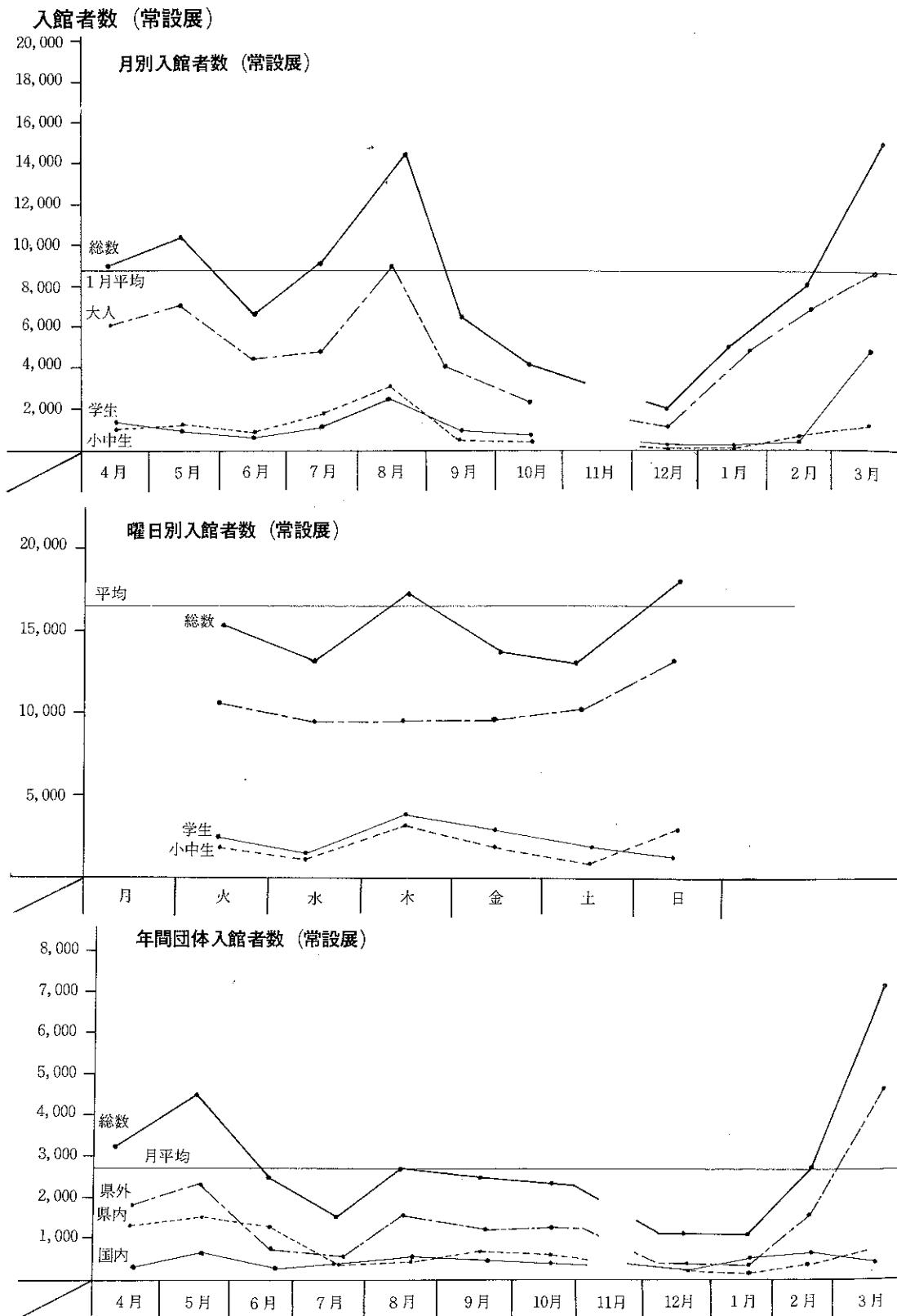


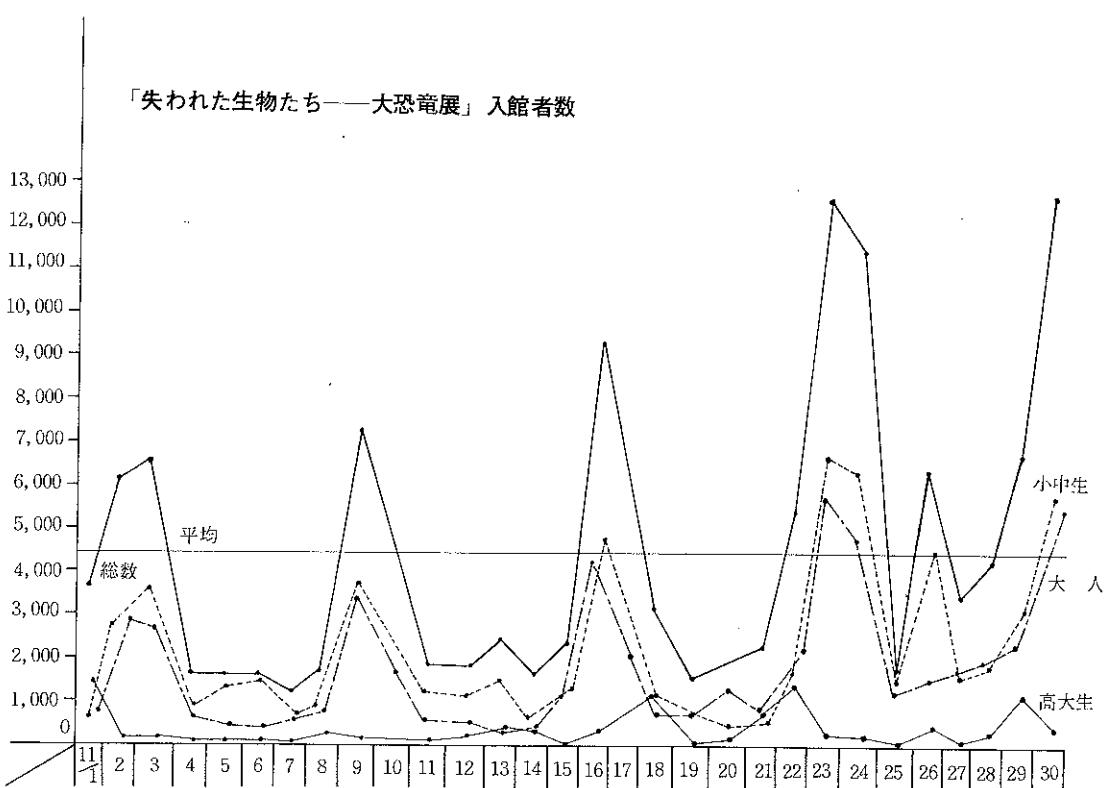
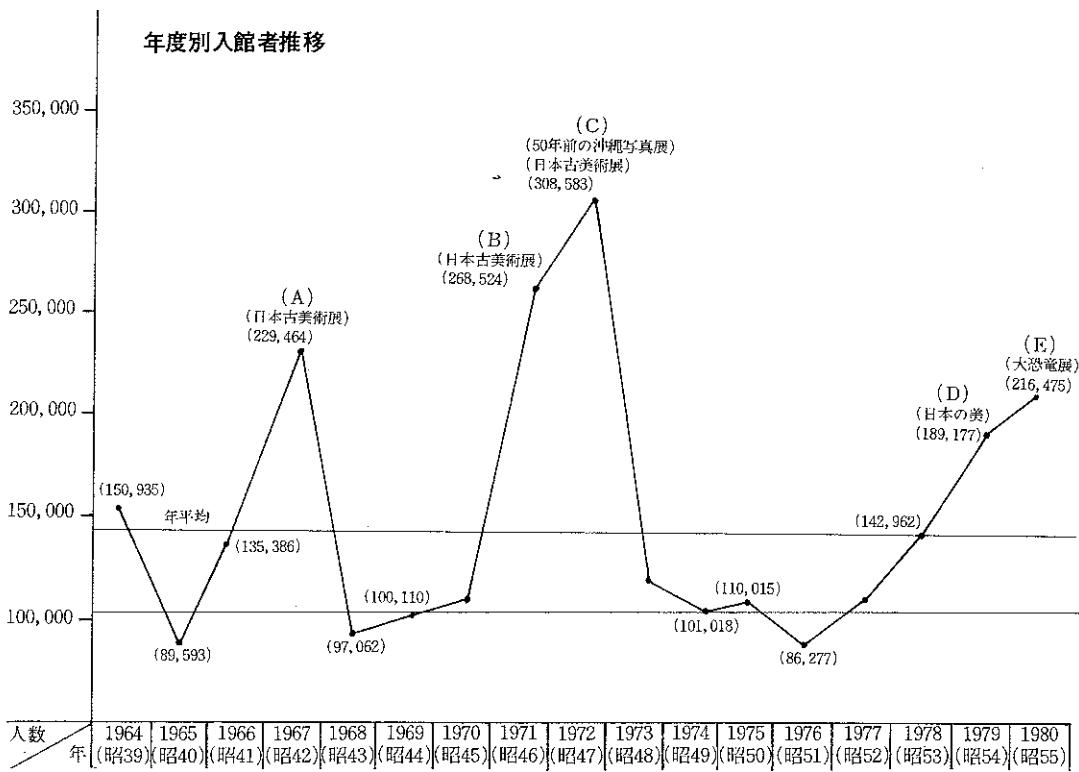
義 村 朝 義 展

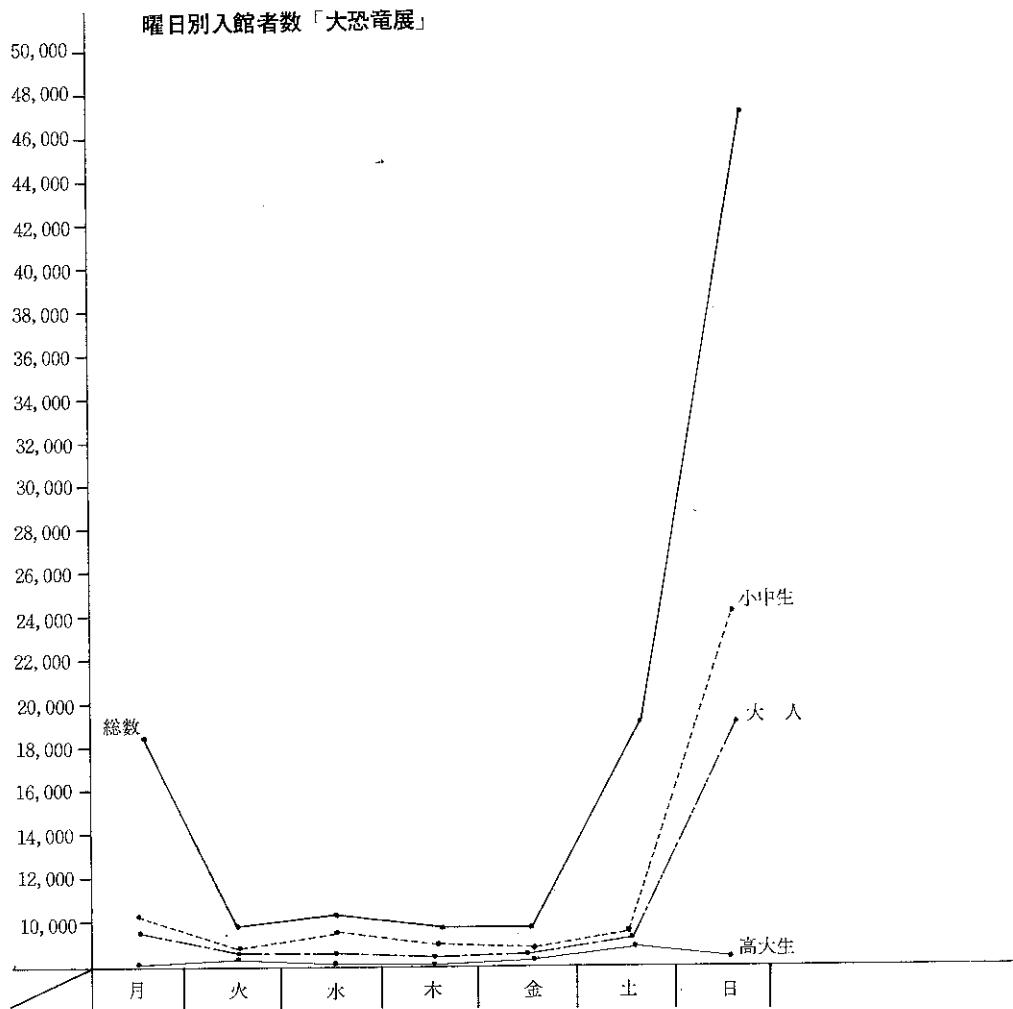


渡名喜島の原始・古代展









入館者数

今年度の入館者総数（常設展）は91,878名で、年間241日開館し、1日平均入館者数は381人。月別の入館者数は前表のとおりであるが、3月、5月、8月が圧倒的に多く、この3ヶ月で全体の約45%を占めている。

これは、春休み、ゴールデンウィーク、夏休みを利用し、親子あるいは教育団体、子供会、婦人学級等の各団体による社会教育の場として活用されているため好ましいことである。

また、特別展「失われた生物たち一大恐竜展」が昭和55年11月1日から11月31日までの28日（10日、17日は休館）ソ連科学アカデミーの協力により、30億年にもわたって生まれては消え、消えては生まれたこれらの生物たちの化石またはレプリカを展示することにより、みなさんが十分に活用され、古生物について、むかしの地球について、さらに深い感心と興味をもつたことだろう。

延入館者数は、124,597人で1日平均4,450人。1日の最高入館者数は、11月23日（公休日）の12,741人で11月30日（最終日）の11,798人がこれにつぐ。

資料

1. 昭和55年度収蔵資料

昭和56年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	計
絵画	A	3	8	0	0	11
書跡	B	47	80	0	0	127
彫刻	C	0	0	0	0	0
建築	D	0	0	0	0	0
陶磁	E	5	22	0	0	27
染織	F	19	2	0	0	21
漆器	G	7	1	0	0	8
金属	H	0	4	0	0	4
歴史	I	0	10	0	0	10
貨幣	J	0	80	0	0	80
音楽・芸能	K	0	36	0	0	36
装身具	L	0	0	0	0	0
民俗	M	0	176	8	1	185
考古	N	0	11	0	0	11
武器・武具	O	0	0	0	0	0
戦争資料	P	0	2	0	0	2
自然	X	843	12	0	0	855
計		924	444	8	1	1,377

2. 収蔵資料現在高

昭和56年3月31日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	計
絵画	A	61	90	1	0	152
書跡	B	127	402	50	5	584
彫刻	C	11	27	163	0	201
建築	D	4	18	0	0	22
陶磁	E	426	760	256	502	1,944
染織	F	784	215	12	0	1,011
漆器	G	176	142	114	0	432
金属	H	10	51	19	0	80
歴史	I	4	158	2	1	165
貨幣	J	25	628	86	0	739
音楽・芸能	K	50	69	0	0	119
装身具	J	68	38	14	0	120
民俗	M	446	1,568	77	74	2,165
考古	N	36	518	195	0	749
武器・武具	O	12	17	0	0	29
戦争資料	P	111	13	0	0	124
自然	X	896	202	6	0	1,104
計		3,247	4,916	995	582	9,740

3.新収蔵資料内容

(1) 購入の部

分類	品名	数量
絵画	樂童子の図	1
"	芭蕉の図	1
"	花鳥の図	1
書跡	謝花雲石書他	43
"	鄭嘉訓書他軸	2
"	鄭章觀書軸	1
"	周煌書「壺中天地七言絶句書」	1
陶磁器	赤絵魚文皿	1
"	線彫魚・海老・貝文大皿	1
"	亀甲文嘉瓶	1
"	抱瓶型花生	1
"	飴釉唐草花彫文大壺	1
染織	裂織刺子類	16
"	花色地雲龍文紅型踊衣裳	1
"	藍染ムルドウツチリ絹紬着物	1
"	芭蕉布格子縫着物	1
漆器	朱漆沈金牡丹巴紋食籠	1
"	朱漆山水樓閣人物箱絵菊花形食籠	1
"	朱漆山水人物箱絵湯庫	1
"	黒漆樓閣人物螺鈿中央卓	1
"	黒漆真塗樓閣人物螺鈿卓	1
"	黒漆山水人物螺鈿花台	1
"	潤塗堆錦山水白檀花台	1
"	黒漆密陀花鳥図箱絵山水樓閣宝箱	1
自然	草食恐竜サウロロフスレプリカ	10
"	リュウグウオキナエビス	833

(2) 寄贈の部

分類	品名	数量	寄贈者	住所
絵画	唐八行列図(木版画)	1	大城吉正	名護市
"	「琉球泡盛」のポスター	1	伊藤勝一	京都
"	雪景山水画(6曲屏風)	1	飯田満佐子	東京
"	幽思	1	池原清子	東京
"	白梅図	1	池原喜英	那霸市
"	行進中の琉球の楽隊	1	ジョージ・H・ケア	ハワイ・ホノルル
書跡	謝花雲石書他	7	謝花寛立	那霸市
"	佐久本興吉書「萬國津梁之鐘銘」	1	佐久本興吉	豊見城村

分類	品名	数量	寄贈者	住所
書跡	謝花雲石使用毛筆、文埴墨他歌拓本面他他	66	立秀磨寛重氏光直一郎伸	那霸市
"	和鄭元偉書扇面他他	1	花儀嘉定新茂宇	那霸市
陶磁器	黑釉茶壺他他	1	寛清卓定富	那与原町
"	黑釉油壺他火	9	寛重氏光直一郎伸	今仁村
"	唐草文角火	3	寛重氏光直一郎伸	那霸市
"	南飴支系南耳	1	秀磨寛重氏光直一郎伸	那霸市
"	青磁線彫魚海老文	2	寛重氏光直一郎伸	那宮村
"	喜名燒酒	1	寛重氏光直一郎伸	読那市
"	綠釉ボツ	1	秀磨寛重氏光直一郎伸	ハワイホノルル
"	屋根獅子	1	常和勝	那霸市
染織	染分地松梅桜に鶴雁文様紅型踊衣裳	1	勝定H・H	東京市
"	菊唐草文様型染	1	吉比田伊吉	那那原町
漆器	金箔工史	1	常勝	与那原町
"	あ	2	勝定・H・H	ハワイホノルル
"	17世紀の東南アジア地図	1	吉比田伊吉	京都都
"	改正日本尽八西海道内	1	吉比田伊吉	那霸都
"	南米渡航案	1	吉比田伊吉	那霸都
"	烟壳渡證	4	吉比田伊吉	那那霸市
"	小学校用日本地理乙(第1種、第2種)	2	吉比田伊吉	那那霸市
貨幣	島津義久より琉球国王宛文書	1	吉比田伊吉	チヂム市
"	アルゼンチン紙幣、硬貨	75	諸翁喜比又山喜	那那原町
楽器	・芸能	10	翁比山喜	那那阪頭
"	B音機	33	翁比又山喜	那志大具
"	薔薇工茶	2	翁比又山喜	那与那具
民俗	工	2	翁比又山喜	那那志大具
"	壺	10	翁比又山喜	那那原町
"	鳳	17	翁比又山喜	那那原町
"	水	5	翁比又山喜	那那原町
"	ウメントウ	2	翁比又山喜	那那原町
"	上焼御殿型厨子がめ	3	翁比又山喜	那那原町
"	味噌	4	翁比又山喜	那那原町
"	ハングガ	1	翁比又山喜	那那原町
"	夕シング一	2	翁比又山喜	那那原町
"	素焼御殿型厨子がめ	2	翁比又山喜	那那原町
"	染付碗	10	翁比又山喜	那那原町
"	海フジヤ	1	翁比又山喜	那那原町

4. 新収蔵図書

(1) 購入の部

書名	著編者
日本文様唐津	西村兵部他
国史大辞典 第1卷	国史大辞典編集委
" 第2卷	"
紋章の再発見	ジョン・ダワー
日本漆工の研究	沢口悟一
うるし工芸辞典	光芸出版編集委
原色日本蝶類図鑑	川副昭人他
" 蛾類図鑑(上)	江崎悌三
" (下)	"
坂本式動物剥製法	橋本太郎
写真集望郷沖縄全5巻	ハワイ大学

(2) 寄贈の部

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
資料館だより No.1~5	沼津市歴史民俗資料館	博物館だより 通巻第11~13	岐阜県博物館
博物館ニュース No.53~59	山形県立博物館	郷土資料館だより 34、35	石川県立郷土資料館
建設調査だより	鹿児島県明治百年記念館	平良市史編集だより	平良市
科学館ニュース No.164~169	市立名古屋科学館	博物館だより No.32~35	仙台市博物館
美術館だより No.172~182	和歌山県立近代美術館	郷土資料館資料シリーズ 第19号 石川日記(二)	八王子市教育委員会
見る No.153~163	京都国立近代美術館	資料館だより No.6	読谷村立歴史民俗資料館
サルピア	栃木県立郷土資料館	土車 第14~17	平安博物館
創価学会ニュース 第137~148	創価学会沖縄本部	岡山県立博物館だより 14号	岡山県立博物館
博物館だより 13~18	名古屋市博物館	茨城県歴史館だより No.19~20	茨城県歴史館
民俗博物館 5、6	奈良県立民俗博物館	国立博物館ニュース 第396~405	東京国立博物館
埋蔵文化財ニュース 23~27	奈良国立文化財研究所	博物館だより vol. 2、No.1~3	小松市立博物館
リトルワールドニュース No.20~23	人間博物館リトルワールド	博物館だより No.39~43	市立旭川郷土博物館
美術博物館だより No.47~52	長崎県立博物館	博物館だより 31号~33号	埼玉県立博物館
博物館だより '80、1~4	神奈川県立博物館	博物館だより No.1、2	群馬県立歴史博物館
文化科学館だより No.3、4	佐世保市文化科学館	くすり博物館だより No.5、6	内藤記念くすり博物館
日展ニュース No.16、19	社団法人 日展	鳥取県博物館協会会報	鳥取県博物館協会
博物館ニュース No.21~26	読谷村立歴史民俗資料館		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
富士美術館だより №10	財団法人富士美術館	美術館ニュース 4~9	東京都美術館
美術博物館だより №5、7	新潟県美術博物館	美術博物館だより	新潟県美術館
博物館だより №7~9	別府太学附属博物館	南島考古だより	沖縄考古学会
とうじ №1、2	愛知県陶磁資料館	博物館だより	岩手県立博物館
沖縄工芸ニュース '80.6.7	(財)沖縄工芸振興センター	郷土資料館だより	八王子郷土資料館
資料館だより	瀬戸内海歴史民俗資料館	友の会だより	北海道立 三岸好太郎美術館
はくさん 第7巻・第8巻・第4号	石川県白山 自然保護センター	博物館だより	北九州市立歴史博物館
天文科学館ニュース 4~12	天文科学館	自治おきなわ'80.3.5.7.9~12.1	沖縄県町村会
文化科学館だより vol.7 №1、2	佐世保市文化科学館	りゅうぎん '80.4~12.1.2	琉球銀行
美術館ニュース美友 第14号'16号	熊本県立博物館	みんぱく 3~12.1.2	国立民俗学博物館
博物館建設だより №5、6	岩手県教育委員会事務所	文化福島 4~12.1	福島県文化センター
民俗博物館だより 通巻23、25	奈良県立民俗博物館	明治村通信 3~12.1	財団法人博物館明治村
鎌倉考古 №1~4	鎌倉考古学研究所	青少年	財団法人青少年育成 国民会議
北海道立青函トンネル記念館 だより №23~25	北海道立青函 トンネル記念館	あるく みる きく 158~163 168	日本観光文化研究所
大分県立芸術会館だより	大分県立芸術会館	古代文化 '80.4~12.1	財団法人古代学協会
山口県立美術館ニュース 天花 第4~6号	山口県立美術館	モンキー №169~176	財団法人日本 モンキーセンター
資料館だより 第20~22	船橋市郷土資料館	民俗文化 198~208	滋賀民俗学会
美術館ニュース	原爆の岡丸木美術館	染織マンスリー 4~12.1.2.3合併号	染織と生活社
ろびい 第10、11	北海道立近代美術館	美術誌 2~12.1	東京国立博物館
美術館だより №46、47	石川県美術館	瓦版 '80.4月	九州文化財保存協議会
図書館だより 通巻73~76	北海学園 大学附属図書館	会報 110~114	岡山民俗学会
博物館のひろば №3~8	斜里町立知床博物館	岡山民俗 138~142	"
版画センターニュース 56~59	現代版画センター	月報 134~137 通巻124~127	市立旭川郷土博物館
動刻ニュース	東京デザイン 工芸株式会社	早稲田大学坪内博士記念 演劇博物館 37~44	早稲田大学坪内博士 記念演劇博物館
金科協ニュース 51~57	全国科学博物館協議会	人間の真理	株式会社明玄書房
科学館ニュース 170~173	市立名古屋科学館	地質調査月報 第1巻第3~12	通商産業省工業技術 院 地質調査所
美術館だより	石川県美術館	広報よみたん №247~248	読谷村
まつり通信 11月号	名古屋市まつり同好会	民芸 三月号	日本民芸館
阡陵	関西大学考古学資料室	奈良県観光 287~291	奈良県観光新聞社
国立科学博物館ニュース 11.1.2	国立科学博物館	徳之島郷土研究会報 8月号	徳之島郷土研究会
美術の森	北九州市立美術館		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
見る・読む・知る 地質調査所月報 総索引(VI)	ビジョン企画出版社	館報31	出光美術館
年報(53年度) 館報 No.1~2	通商産業省工業技術院 地質調査所 奈良県立美術館 富山市考古資料館 国立史料館 京都国立近代美術館 法政大学沖縄文化研究所 武蔵野美術大学 美術資料図書館	館報 vol.2、No.1 年報 昭和53年 伊場遺跡遺物編2 伊場遺跡遺物編2 別冊図版 台湾省立博物館科学年刊 年報 昭和54年度 岐阜県博物館報 第3号 昭和54年度 大分県立芸術会館年報 昭和54年度	千葉県立大利根博物館 東京国立近代美術館 浜松市教育委員会 " " " "
史料館報 第32、33号 年報53年 所報 館報 9 館報 No.35~37 館報 No.5 対馬資料館報第3号 長崎市立博物館報第20号 正倉院年報第2号 年報第7号 秋田美術 総合事務局報 85~95 館報 復刊第6号 館報 No.3 館報 30~33 館報 第4号 船と港のはくぶつかん No.8~10 館報 No.48~50 年報54年 年報'80、第5号 館報(昭和51年~昭和53年度) 第1号 館報 No.26 館報 <昭和54年度> vol. 8 館報 No.36~37 安房博物館報 23号、25、26合併号 博物館報 第22号(昭和53年度版) 調査研究年報 第5号	北海道立 三岸好太郎美術館 長崎県立 対馬歴史民俗資料館 長崎市立博物館 宮内庁正倉院事務局 仙台市博物館 秋田県立美術館 沖縄総合事務局 福井市立郷土歴史博物館 熊本市立熊本博物館 出光美術館 諒谷村立歴史民俗資料館 財団法人 横浜海洋科学博物館 佐賀県立博物館 豊橋市美術博物館 瀬戸内海歴史民俗資料館 埼玉県立歴史資料館 横須賀市博物館 新潟県美術博物館 長岡市立科学博物館 千葉県立安房博物館 群馬県立博物館 青森県立郷土館	筑波大学芸術年報 '79 年報 昭和54(1979)年度 昭和54年 船橋市郷土資料館年報 館報 No.262~264 館報 第7号 1980 年報 昭和53年度 リトルワールド年報 第2号 1979年度 館報 昭和55年6月 館報 7 致道 館報第15号 館報 No.9~10 A GEOGRAPHICAL GUIDE TO OKINAWA 年報 昭和54年度 年報 昭和54年度 山口県の博物館(年報) 年報 No.10 昭和54年度 館報 No.49 年報 昭和54年度 館報 館報 年報 昭和54年度 年報 '78、'79	福岡市立歴史資料館 船橋市郷土資料館 釧路市立郷土博物館 青森県立郷土館 九州歴史資料館 人間博物館 リトルワールド 山口県立山口博物館 山形大学附属博物館 財団法人致道博物館 埼玉県立 さきたま資料館 琉球大学 神奈川県立博物館 東北歴史資料館 山口県立山口博物館 佐賀県立博物館 " " 九州歴史資料館 千葉県立大利根博物館 千葉県立安房博物館 名古屋市博物館 東京芸術大学学芸資料館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
年報 昭和54年度	熊本県立美術館	有形民俗資料調査報告書	念館建設調査室
館報 No.19	大阪市立博物館	リトル・ワールド研究報告書第4号	人間博物館 リトル・ワールド
所報 15号	法政大学沖縄文化研究所	調査研究報告第1号	岐阜県博物館
年報 第7号	和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所	第27回全国博物館大会報告書	日本博物館協会
年報(付図)	"	王遺跡(新潟県中魚沼郡中里村)	国学院大学考古学第一研究室
会報 No.22	鳥取県博物館協会	名護市天然記念物調査報告2	名護市教育委員会
年報 No.4	平塚市博物館	名護市の御獄林	
年報 昭和54年度	京都国立博物館	法文学部紀要 史学・地理学編第23号	琉球大学法文学部
年報 28	ブリヂストン美術館 久留米・石橋美術館	郷土資料調査報告書第5集 栃木県の稻作習俗	栃木県立郷土資料館
年報 昭和54年度	市立市川博物館	大宰府史跡 昭和54年度発掘調査概報	九州歴史資料館
館報 1980	岡山市立 オリエント美術館	般若寺跡 昭和54年度発掘調査概報別冊	"
年報 1980	奈良国立文化財研究所	南科研資料センター報告	南方科学 研究資料センター
年報 昭和54年度	長崎県立美術博物館	沖縄久米島における言語・文化・社会の総合的研究 (中間報告)	法政大学 沖縄文化研究所
館報 第1号(昭和54年度)	富山市科学文化センター	博物館研究 vol. 15 No.3~12	社団法人 日本博物館協会
館報 No.6	北海道立 三岸好太郎美術館	研究報告 第4集	福岡市立歴史資料館
館報 創刊号	京都府立円後郷土資料館	神奈川県 埋蔵文化財調査報告19	神奈川県教育委員会
年報 3、4	北九州市立歴史博物館	山口県の自然 第4巻第10号 (No.40)	山口県立山口博物館
年報 昭和54年度	北海道立近代美術館	山口県立山口博物館研究報告 第6号	"
館報	浦和市立郷土博物館	名護市天然記念物調査シリーズ第1集 名護市動物総合調査報告書	名護市教育委員会
沖縄民俗研究第2号、第3号	沖縄民俗研究会	砂丘上の遺跡確認調査報告	平塚市博物館
研究紀要 第16、17集	小松市立博物館	大磯丘陵の地質1	"
県内貝塚における動物遺存体 の研究(2)	茨城県歴史館	家と村III - 平塚市旧真田村一	"
研究報告 第2集	香川県自然科学館	研究紀要第4号	奈良県立民俗博物館
研究報告 第6号	瑞浪市化石博物館	奄美方言分類辞典 下巻	笠間書院
筑紫野市文化調査報告書 第2~4集	筑紫野市教育委員会	奄美における自然・社会・ 文化に関する総合研究	九学会連合 奄美調査委員会
沖縄県の戦前における師範学校を中心とする教員養成についての実証的研究	沖縄教員養成史研究会	三重県立博物館研究報告 自然科学 第2号	三重県立博物館
書陵部紀要 第31号	宮内庁書陵部		
研究紀要12	武藏野美術大学		
紀要6	埼玉県立博物館		
曾於北、姶良地区	鹿児島県明治百年記		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
瀬戸内の海事史資料調査報告 第二集	瀬戸内歴史民俗資料館	群馬県立歴史博物館紀要 第1号 1980	群馬県立歴史博物館
鳥取県立博物館研究報告 第17昭和55年	鳥取県立博物館	久戸古墳群 第3集	福岡県教育委員会
博物館学紀要 第4輯	国学院大学博物館学研究室	春日御供団区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告 第56集	"
奄美資料(10) 笹森儀助大島々司中島序関係資料(三)	鹿児島県立図書館 奄美分館	堂の前遺跡 第1集	"
自然保護教育の現状と問題点 一野外観察会と自然研究路を中心として	国立科学博物館附属自然教育園	若宮宮田工業団地関係埋蔵文化財調査報告 第2、3集	"
自然教育園の自然観察会	"	二丈、浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告	"
筑後国府跡 第20~24集 久留米市文化財調査報告書	久留米市教育委員会	今光遺跡、地余遺跡	"
東部土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査概要	"	福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第9集	"
四之宮下ノ郷調査概報 129号線道路拡幅改良事業に伴う発掘調査 No.1	平塚市神田大野遺跡調査団 小島 弘義	福江市文化財調査報告書 白浜貝塚 第2集	福江市教育委員会
横須賀市博物館研究報告(人文科学) 第23号	横須賀市博物館	博物館施設における学習活動調査報告書	芦小牧市青少年センター
秋田県立博物館研究報告 第5号	秋田県立博物館	浦和市立博物館研究調査報告書 第7集	浦和市立郷土博物館
平良市の文化財	平良市教育委員会	宮古研究 第2号	宮古郷土史研究会
北九州市自然史博物館研究報告 第2号	北九州市自然史博物館開設準備室	神奈川自然誌資料	神奈川県立博物館
長岡市立科学博物館研究報告 第15号	長岡市立科学博物館	光明寺裏遺跡	北区鎌倉学園内遺跡発掘調査団
津山における心学史料 下 倉敷考古館研究集報 第15号	市立津山郷土館 財團法人倉敷考古館	民俗学研究所紀要 第四集	成城大学民俗研究所
松菊里 1 (本文) " (図版)	国立中央博物館	博物館指導者 研究協議会報告書	日本博物館協会
紀要 第3号	"	東京国立博物館紀要 第15号	東京国立博物館
大平山元II遺跡発掘調査報告書 第8集、考古-4(図版編)	北海道立近代美術館	遺跡を民衆の手に 第一集 花立山南麓古墳郡の調査	原田英明・久保山教善、編著者山口淳
" (本文編)	青森県立郷土館	座喜味城跡 第5、6次遺構発掘調査	諫谷村教育委員会
調査報告書第7集・民俗-4 鶴沢・有畑・浜田の民俗	青森県立郷土館	本綿原諫谷村 文化財調査報告書 第5集	諫谷村立歴史民俗資料館
東京都の自然 第7集	東京都高尾自然科学博物館	国立民俗学博物館研究報告 4巻、3号、4号	国立民俗学博物館
研究紀要 第3巻	名古屋市博物館	沖縄県自然環境保全地域 指定候補地学術調査報告	天野 鉄夫
石川県白山自然保護センター 研究報告 第6集	石川県白山自然保護センター	琉球列島における自生および 外来樹種の用途、分布および 適応性	"
		研究紀要 (昭和54年度)	宮崎県総合博物館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
昭和54年度大分の近世美術 (書・画) 所在調査報告書	大分県立芸術会館	象狩りをした人たち ぼくらの野尻湖発掘	大阪市立自然史博物館
資料館紀要 第8号	京都府立総合資料館	馬毛島埋葬址 研究室活動報告 6	熊本大学 文学部考古学研究室
平城京左京三条四坊七坪 発掘調査概要	奈良国立文化財研究所	タチバナ遺跡(2) 研究室活動報告 7	"
研究報告書 33号	大阪市立自然史博物館	研究報告 2	岡山県立博物館
芸術研究報 1	筑波大学芸術学係	研究紀要 第6巻	東北歴史資料館
釧路市立郷土博物館紀要 第7輯	釧路市立郷土博物館	名護市史 資料調査報告書 第一集	名護市教育委員会
沖縄文化研究 7	法政大学 沖縄文化研究所	昭和55年 名護市の教育 - 10年のあゆみ -	"
埼玉県与野市文化財報告書 第4集 笠間神社境内遺跡	与野市教育委員会	宮ノ空遺跡 大宰府町の文化財第3集	大宰府町教育委員会
研究報告書 A類(動物学) 第6巻第2号、3号、4号	国立科学博物館	南島研究婚姻特集 第2号	南島研究会
研究報告書 B類(植物学) 第6巻第2号、3号、4号	"	亜熱帯林	琉球大学農学部
研究報告書 C類(地質学、 古生物学) 第6巻第2号、3号、4号	"	板付周辺遺跡調査報告書(6)	福岡市教育委員会
紀要 第十三号 1979	立正大学教養部	多々良込田遺跡II	"
糸満高等学校研究紀要 ふんるう 創刊号	糸満高等学校	下和白塚原古墳群	"
学校要覧 昭和55学年度	"	千里シビナ遺跡	"
公共図書館サービスのネット ワークの整備に関する調査研 究報告書	文部省社会教育局 社会教育課	下月隈宮ノ後遺跡	"
知床博物館研究報告 第2集	斜里町立知床博物館	御鷹屋敷	"
北九州市文化調査報告書 第34集 北九州市曾根地方の前 方後円墳	北九州市教育委員会	県道大野・二丈線関係 埋蔵文化財調査報告I	"
北九州市小倉産白亜紀魚類化 石第二次発掘調査報告書	"	研究論集 6	九州歴史資料館
伊是名ウフジカ遺跡 発掘調査報告書	伊是名村教育委員会	文科系文献目録 X X V	編者 田港朝比嘉昭夫
霞台遺跡群 =昭和54年度調査概報	青梅市郷土博物館	保存科学第19号	東京国立文化財研究所
美作国分寺跡発掘調査報告書	津山市教育委員会	紀要 第11集	徳島県博物館
発掘された古代の水田 '80'7.19~8.31	"	鹿児島県民俗 72号	鹿児島民俗学会
法文学部紀要 史学、地理学篇 第二十三号	琉球大学法文学部	調査報告書 1	国立民俗学博物館情報管理施設
八幡山古墳石室復原報告書	埼玉県教育委員会	青山史学	青山学院大学文学部
浅間山の観察手帳	浅間火山博物館	沖縄大学紀要 第1号	沖縄大学教養部
		上土幌町ひがし大雪博物館 研究報告 第5号	上土幌町 ひがし大雪博物館
		佐賀県文化財調査報告書 第54集 下巾杖遺跡	佐賀県教育委員会 文化課
		芦刈町文化財発掘調査報告書 小路遺跡	"

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
神崎町文化財調査報告書 利田柳遺跡Ⅲ区、	"	福岡市埋蔵文化財調査報告書 第54集 吉武塚原古墳群	"
佐賀県文化財調査報告書 第55集 尾崎利田遺跡	"	南科研資料センター報告	南方科学 研究資料センター
上峰村文化財調査報告書 第2集 屋形原遺跡	"	多摩ニュータウン遺跡調査 概要 -昭和54年度-	東京都埋蔵文化財セ ンター調査会係
九州横断自動車道関係埋蔵文 化財発掘調査報告書(1) 大門西遺跡	"	多摩ニュータウン遺跡調査 報告Ⅷ	"
九州横断自動車道関係埋蔵文 化財発掘調査報告書(2) 宝満谷遺跡	"	わたしたちの自然史	北九州市自然史博物 館開設準備室
中原町教育委員会文化財調査 報告書第3集姫方原遺跡 -B・C地点-	"	十津川郷の丸田家文書の報告	日本民家集落
中原町教育委員会文化財調査 報告書第4集姫方原遺跡 -E地区-	"	渡名喜島の遺跡1	渡名喜村教育委員会
佐賀県遺跡地図(三神地区)	"	国立民俗学博物館研究報告 5巻1号~3号	国立民俗学博物館
佐賀県遺跡地図(佐城地区)	"	研究報告第7号	瑞浪市化石博物館
沖縄市文化財調査報告書 第2集 鬼大城の墓	沖縄市教育委員会	瑞浪地域の地質	"
沖縄市文化財調査報告書 第3集 尚宣威王の墓	"	瑞浪地域地質図	"
日本常民文化研究所調査報告 第5集 紀年銘(年号のある)民 具目録・図録 -東日本-	日本常民文化研究所	金澤文庫研究	神奈川県立金沢文庫
日本常民文化研究所調査報告 第6集 紀年銘(年号のある)民 農具調査 -東日本-	"	近江文化	近江歴史民俗博物館
愛媛県立博物館自然科学普及 シリーズ1 宇和島地方の化石	愛媛県立博物館	日本産花粉の標徴I	大阪市立自然史 博物館
ANNUAL REPORT No.6	筑波大学地球科学系	日本産花粉の標徴II(図版)	"
研究紀要 第12冊	大阪市立博物館	紀要 vol. 6	嵯峨美術短期大学
浦添市文化財調査報告書 第1集 うらそえの文化財 -遺跡分布調査報告-	浦添市教育委員会	伊江村文化財調査報告書 第8集 伊江島ナガラ原西貝塚	伊江村教育委員会
沖国大考古 第4号 室川貝塚 第2~4 発掘調査 概報	沖縄国際大学文学部 考古学研究室	具志川島遺跡群 -岩立地区埋葬遺構の調査-	伊是名村教育委員会
四箇周辺遺跡調査報告書(3) 夫婦塚古墳	福岡市教育委員会	長崎県文化財調査報告書 第51集 串島遺跡	長崎県教育委員会
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第56集 徳永アラタ古墳群	"	名取新宮寺一切経調査報告書	東北歴史資料館
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第58集 有田・小田部 第1集	"	博物館研究 vol.16、No.1	日本博物館協会
	"	横須賀市博物館研究報告 (自然科学) 第27号	横須賀市博物館
	"	自然科学の手法による遺跡、 古文化財等の研究 (昭和52年度年次報告書)	帝京大学渡辺教授室
	"	鹿児島県植物方言集	鹿児島県立博物館
	"	文学部紀要(国文学篇) 第9卷第1、2合併号	沖縄国際大学
	"	恩智遺跡	爪生堂遺跡調査会
	"	国立科学博物館専報 第13号	国立科学博物館

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
南アルプスと紀伊半島を中心とした地域の自然史科学的総合研究(II)		別府大学紀要	別府大学研究出版委員会
大分県上下田遺跡発掘調査報告書	別府大学付属博物館	中島 進展報告 I 名護市久志部落調査報告 村落 5 号	国立中央博物館
郷土 第18号 国頭村安田部落調査報告	沖縄大学 沖縄学生文化協会	小松市立博物館研究紀要 第18集	沖縄国際大学 1部民俗クラブ 小松市立博物館

5 博物館所蔵国・県指定文化財一覧表

1 国指定文化財

(1) 重要文化財

昭和56年4月1日現在

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書 典籍 〃	おもろさうし 混効験集	22 冊 2 冊	昭48. 6. 6	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工芸	銅鐘 (旧首里城正殿鐘) 梵鐘 (旧円覚寺殿前鐘) 梵鐘 (旧円覚寺殿中鐘) 梵鐘 (旧円覚寺樓鐘)	1 口 3 口	昭53. 6. 15 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃

2 県指定文化財

(1) 有形文化財

種別	名 称	員 数	指定年月日	所在の場所	所有者
彫刻 〃	木彫円覚寺白象並びに趣意書 世持橋勾欄羽目	1 艦 1 枚 1 括	昭33. 3. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
絵画 〃	絹本着色花鳥図 殿元良筆 紙本着色雪中雉子の図 殿元良筆	1 幅 〃	昭54. 4. 9 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
工芸 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	三味線江戸与那 聞得大君御殿雲龍黃金簪 黒塗螺鈿遊雁絵大文庫 黒塗堆綿山水絵大文庫 黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀 枝梅竹文赤絵椀 線彫染付魚文皿 色象嵌栗絵菊花皿 象嵌色差面取抱瓶	1 挞 1 本 1 合 〃 1 口 〃 〃 〃 〃	昭33. 8. 15 昭33. 3. 14 昭31. 12. 14 〃 〃 昭54. 9. 3 〃 〃 〃	県立博物館 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	沖縄県 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
典籍 〃	評定所格認定本 中山世鑑 中山世譜	6 冊 19 冊	昭31. 12. 14 〃	県立博物館 〃	沖縄県 〃
古文書 〃 〃 〃 〃	宮古島下地の首里大屋子への 辞令書 明孝宗より琉球國中山王尚真 への勅書 伊平屋島仲田の首里大屋子へ の辞令書 羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅 1 卷 1 通 1 幅	昭31. 12. 14 昭49. 11. 11 昭53. 4. 1 昭56. 3. 30	県立博物館 〃 〃 〃 〃	沖縄県 〃 〃 〃 〃

当館関係条例規則（抄）

○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日） （条例第24号）

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次とおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日） （教育委員会規則第2号）

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

（趣旨）

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

第2条 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

教育普及係

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の管守に関すること。
- (3) 施設設備の管理に関すること。
- (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (5) 博物館協議会に関すること。
- (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
- (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
- (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日） (教育委員会規則第13号)

〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

沖縄県立博物館の管理に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(管理の責任)

第2条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

(諸帳簿)

第3条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現状を明らかにしておかなければならぬ。

(施設設備の亡失)

第4条 館長は、火災その他の事由により旋設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

(警備防災の計画)

第5条 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(当直)

第6条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるもののほか、宿日直勤務については、職員服規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

第7条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

第8条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

第9条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

第10条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

第11条 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄託を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第12条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第13条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第14条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第15条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

第16条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

第17条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

第18条 博物館施設（講堂、第5陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

第19条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第20条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

第21条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第22条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書 沖縄県立博物館長 謹	昭和年月日
申込者 住所 氏名	記
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
1 種別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

受諾書 上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	昭和年月日
沖縄県立博物館長	記
7 寄託期間 昭和年月日	昭和年月日まで

博物館資料寄託申請書 沖縄県立博物館長 謹	昭和年月日
申込者 住所 氏名	記
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
1 種別	記
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 寄託期間 昭和年月日	昭和年月日から 昭和年月日まで

第3号様式（第11条関係）

博物館資料受託承認書		昭和年月日
殿 沖縄県立博物館長		印
1 種別	2 作者名	3 作品名
4 製作年月日	5 附属品	6 受託期間
7 備考	記	
では、下記により受託します。		

第4号様式（第18条関係）

博物館施設使用許可申請書		昭和年月日
沖縄県立博物館長 殿		申請者氏名 電話
下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださるようお願ひします。		
記		
1 使用者	団体名	及び
	代表者名	印
2 使用目的	住 所	電話
3 使用する施設：1ホール	2 臨時陳列室	
4 使用する日時及び期間		
自：昭和年月日	午	時 分 ()
至：昭和年月日	午	時 分 日間
5 予定参加人員 人		
6 その他必要な資料（プログラム等）		
7 備考	許可書	
月 日付申請の（ ）	使用の件、申請どおり許可します。	
昭和年月日	沖縄県立博物館長	

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）
(教育委員会規則第29号)

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

第3条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

第6条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第7条 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）
（条例第37号）

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年3月29日条例第16号抄）

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

別表第1（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	100 円
大学生及び高校生	50 円
中学生及び小学生	20 円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報No.14（昭和55年度）

昭和55年8月10日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町1の1

▼903 TEL: 0988-84-2243
86-4353

印刷 (株)丸正印刷社

住所 那覇市字国場349-3

TEL: 0988-54-8484